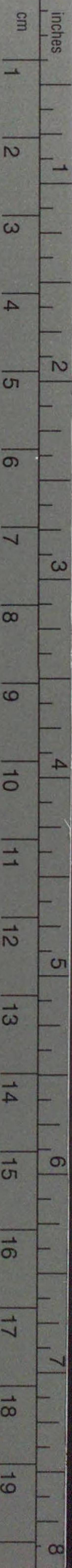


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

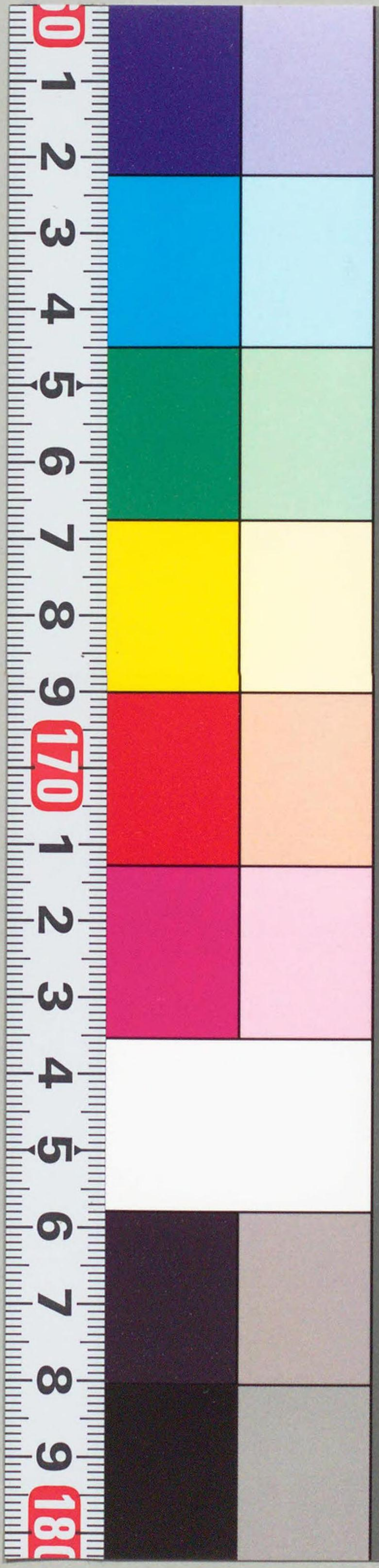
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



6710
14



昭和十年十二月

CZ-537-H2



1200600091195

海上労働關係法令

遞信省管船局

CZ-537-H2

本書ヲ印刷ニ附シタルハ閱覽及執務ノ便宜上筆寫ニ代ヘタルニ
止マリ敢テ之ヲ公刊スルノ趣旨ニアラス

遞信省管船局海員課

海上労働關係法令

目次

商法中「船員」ニ關スル規定	一頁
船員法	六
船員法施行細則	一八
船員法第二十三條ノ規定ニ依ル送還費用ノ償還ニ關スル件	三二
船員最低年齢法	三三
船員最低年齢法施行令	三六
船員最低年齢法施行細則	三六
船員職業紹介法	三九
船員職業紹介法施行規則	四〇
附 錄	
船舶法拔萃	四七
船舶安全法拔萃	四七
船舶安全法施行規則拔萃	四九
船舶設備規程拔萃	五五
民法中「雇傭」ニ關スル規定	五六



I 種
W



1200600091195

(附)舊民法中『雇傭契約』及『習業契約』ニ關スル規定	五八
商法中『商業使用人』ニ關スル規定	六一
勞働爭議調停法	六二
勞働爭議調停法施行令	六五
工場法	六七
工場法施行令	七二
工場法施行規則	八六
勞働者災害扶助法	九二
勞働者災害扶助法施行令	九六
勞働者災害扶助法施行規則	一〇八
勞働者災害扶助責任保險法	一一〇
勞働者災害扶助責任保險法施行令	一一一
勞働者災害扶助責任保險法施行規則	一一六
傭人扶助令	一二四
漁業法第四十條	一二八
鑛業法中『鑛夫』ニ關スル規定	一二八
鑛夫勞役扶助規則	一三〇
工業勞働者最低年齡法	一四四
工業勞働者最低年齡法施行規則	一四五

職業紹介法	一四六
職業紹介法施行令	一四八
職業紹介法施行規則	一四九
健康保險法	一五五
健康保險法施行令	一六八
健康保險法施行規則	一九〇
遞信省官制拔萃	二一三
社會局官制	二一四

海上労働關係法令



第五編 海商

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條

船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、傭船者、荷送人其
他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百五十九條

海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スル
ニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百六十條

船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク
外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條

船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ
要ス

第五百六十二條

船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

一 船舶國籍證書

二 海員名簿

三 屬具目錄

四 航海日誌

五 旅客名簿

六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類

七 税關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限り命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代リテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス
利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條 船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 船舶ヲ抵當ト爲スコト

二 借財ヲ爲スコト

三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セサリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

(第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送賃及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス)

第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

- 一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ
- 二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滯ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

四

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滯ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス
前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
- 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
- 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一個月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
- 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有

ス

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸

カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 船舶カ沈没シタルコト
- 二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
- 三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

△船員法

明治三十二年三月八日
法律第四十七號

第一章 總 則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戶籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラス

- 一 氏名
- 二 本籍地
- 三 身分
- 四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタルトキハ其到著ノ日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一个月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知りタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滞ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到著シタル後遲滞ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ら船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四 船舶カ捕獲セラレタルトキ

五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作り其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺產ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滞ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選
任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章 海員

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シ
テ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名、捺印セシム
ルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲
スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若
シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル
前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要
ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得
管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ

公認ヲ爲フコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿
及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ
得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコ
トヲ要ス

第二十七條 及ヒ**第二十八條**ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ
公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付
又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク**第二十九條**ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 紀律

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
- 二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
- 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

- 四 海員カ喧争シタルトキ
 - 五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ
 - 六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ
 - 七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ
 - 八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
 - 九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
 - 十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
 - 十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ
- 第三十七條** 懲戒ハ左ノ四種トス
- 一 監禁
 - 二 上陸禁止
 - 三 加役
 - 四 減給

- 第三十八條** 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス
上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス
加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス
減給ハ給料月額十分ノ一以下トス
- 第三十九條** 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス
- 第四十條** 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

- 第四十一條** 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得
- 第四十二條** 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得
- 第四十三條** 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第四十四條** 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得
- 第四十五條** 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章 罰 則

- 第四十六條** 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス
- 詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ
- 第四十七條** 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十八條** 虚僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一年以上一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス
- 公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ行使シタル者亦同シ
- 第四十九條** 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ

二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ

三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條 船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔重禁錮〕ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ一年以上一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 船舶ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
海員カ脱船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一年以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一年以上一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

前項ノ罪ヲ犯シテ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ〔重懲役〕ニ處ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ〔重懲役〕ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法〔第六十九條〕ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

刑法〔第二百二十九條〕ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第七十條 海員カ上長ニ對シテ〔毆打創傷〕ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

二 脫船シタルトキハ一年以上一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一年以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船舶海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス

前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

明治三十二年六月十日勅令第二百四十一號

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シ船員法施行ノ件

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ船員法ヲ施行ス

△船員法施行細則

明治三十二年六月十二日
逕信省令第二十五號

改正 明治三十三年第七八號、三十七年第四九號、四三年第二號、大正二二年
第八四號、一五年第二號、昭和五年第二〇號、八年第三號、第二二號

第一章 總 則

- 第一條 船員法又ハ本則ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ掲クル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第三條 船員法及本則中最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到著シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ
- 第四條 本則第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ

第二章 船員手帖

- 第五條 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ
- 船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲クル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ申請書ニ添付スヘシ但申請書ニ其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス
- 第六條 未成年者ハ前條ノ規定ニ從フ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ
 - 一 未成年者ノ氏名及本籍地
 - 二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨
 - 三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日
 - 四 法定代理人ノ本籍地及住所

第七條 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ船員手帖ヲ添ヘ同法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請セントスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出シ且書換ヲ申請スル場合ニハ船員手帖ヲモ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但船員法第十一條但書ノ場合ハ此限ニアラス

海員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコトヲ要ス

第八條ノ二 船員カ汽船ニ乗組マムトスルトキハ船員手帖ニ新ニ撮影シタル自己ノ寫真(名刺形又ハ手札形、單獨、半身、脱帽、臺紙ナキモノ)ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テハ船員手帖ニ前項ノ寫真ヲ貼附シ年月日ヲ記載シタル後之ヲ當該受有者ニ還付ス

前二項ノ規定ハ船員手帖ニ貼附シタル寫真カ滅失若ハ毀損シ又ハ貼附ノ日ヨリ十年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セントスル者ハ其事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員手帖ヲ差出スヘシ

第九條ノ二 雇入期間中行衛不明トナリタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ其雇止公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ船員手帖ヲ差出スヘシ若シ之ヲ差出スコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ

他人ノ船員手帖ヲ保管スル者該船員手帖受有者ノ所在不明ニシテ之ヲ本人ニ還付スル能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一箇年内ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ廢棄スヘシ

第九條ノ三 海員カ最後雇止ノ公認ヲ受ケタル日ヨリ引續キ三年間雇入ノ公認ヲ受ケサルトキハ其ノ受有スル船員手帖ハ

之ヲ無効トス雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員カ最後下船ノ日ヨリ引續キ三年間乗船セサルトキ亦同シ

雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員ハ乗船又ハ下船ノ日ヨリ十四日以内ニ第十二號又ハ第十三號書式ニ依リ最寄管海官廳ニ届出ヲ爲スヘシ但シ船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ乗船若ハ下船ノ届出又ハ退職認證ノ申請ヲ爲ササルトキハ第一項ノ期間ハ船員手帖交付ノ日又ハ最後乗船ノ届出若ハ最後就職認證ノ申請書ニ掲クル乗船若ハ就職ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十條 船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ現ニ受有スル船員手帖ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シ更ニ其交付ヲ申請スヘシ

第十一條 本章ニ掲クル申請ハ日本ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘキモノトス

第十二條 船員手帖ノ様式ハ第二號書式ニ依ル

第三章 船 長

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滯ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滯ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所其他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ

四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ

五 船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ

六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ

七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分シタルトキ

八 船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ

九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ

十 船中ニ於テ出生アリタルトキ

十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ

十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ

第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

第十六條 本章ニ掲クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様抹消スヘシ

第十三條第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從フ外其行端ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ

第十七條 管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閱ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閱ヲ爲シタル旨及檢閱ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第十八條 船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數

二 船籍港

三 船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

四 船長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關ノ種類、公稱馬力、機關長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類

五 船舶ノ發航港並到達港及報告スヘキ事實ノ發生シタル場所並年月日時

六 報告スヘキ事實ノ顛末

第十九條 報告書ノ認證ハ報告書ニ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第二十條 海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ遲滞ナク重立チタル海員二名以上ノ立會ヲ以テ其遺産ヲ取調ヘ遺産目錄ヲ作ルヘシ

遺産目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺産ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

一 死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時

二 遺産ノ品名及各品ノ數量、若シ金錢ナルトキハ其金額

三 遺産目錄ヲ作りタル年月日

第二十一條 船長ハ戶籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ戶籍吏、公使又ハ領事ニ送付スル場合ニ於テハ其港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ遺産目錄ヲ差出スヘシ

船中ニ死亡者アリタルモ前項ニ掲クル謄本ノ送付ヲ要セサルトキハ船長ハ遺産目錄ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキ場合又ハ航行中ノ作リタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ遺産目錄ヲ差出スヘシ

第二十二條 前條ニ依リ遺産目錄ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ其管海官廳又ハ其指定スル管海官廳ニ遺産ヲ差出スヘキコトヲ船長ニ命スルコトヲ得

第二十二條ノ二 船員法第二十三條第一項ニ依リ日本臣民ヲ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ公使、領事又ハ貿易事務官ノ指定シタル港ニ到著シタルトキハ其港ニ於ケル警察署ニ送還ノ事由ヲ説明シ被送還者ヲ引渡スヘシ

前項ニ依リ被送還者ヲ引渡シタル船長カ被送還者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ被送還者ノ氏名、出生年月日、出生地、身分、本籍地、住所、扶養義務者ノ氏名、住所及送還ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ作り之ヲ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其證明ヲ申請スルコトヲ得

船長カ明治三十三年勅令第四百十五號ノ規定ニ依リ臺灣總督府、北海道廳又ハ府縣ニ送還費用ノ請求ヲ爲ス場合ニハ請求書ニ前項ノ書類ヲ添附スヘシ

第二十三條 船長カ就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セントスルトキハ就職ノ場合ニハ第九號書式退職ノ場合ニハ第十號書式ノ申請書ニ就職又ハ退職及其年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從フ外其海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十四條 第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 海員

第二十五條 海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第三號書式ノ申請書

二 被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條 海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一 甲板部海員

第二 機關部海員

第三 事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條 當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條 海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條 被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條 船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ但シ機關部員以外ノ者ニ在リテハ機關ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第三十一條 船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十二條 船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滞ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ海員雇入ノ公認ヲ申請スヘシ

一 海員雇入期間カ滿了シタルトキ

二 海員カ死亡シタルトキ

三 海員雇入契約ヲ解除シタルトキ

四 海員雇入契約カ終了シタルトキ

五 雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條 海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條

ニ掲クル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其事實發生シタルトキハ其後最初ニ到著

シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第四號書式ノ申請書

二 被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條 第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇入ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二 管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求

スルコトヲ得

一 雇入年月日

二 職務

三 雇止年月日

四 雇止事由

五 雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止公認ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第一項ニ掲クル海員カ前項ノ證明書及雇止公認ノ通知ヲ受ケタルトキハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ前項ノ證明書及通知書ヲ添ヘ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ提出シテ雇止公認ノ認證ヲ申請スヘシ

第三十六條 被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタル年月日竝當事者ノ一方出頭セスシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スル者ハ其申立ヲ確ムヘキ證據アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十八條 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ呼出シタルトキハ當事者ノ争ニ關シ各申立ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證據アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十條 海員雇入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第五號書式ノ申請書

二 第二十五條第二號ノ書類

三 第三十四條第二號ノ書類

第四十一條 海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港

ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第六號書式ノ申請書

二 契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第四十二條 第二十六條乃至第二十九條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條第二號及第三號ノ書類又ハ前條第二號ノ書類ハ更新又ハ變更ノ公認アリタルトキ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十二條ノ二 海員雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ノ相當欄ニ更新又ハ變更ノ年月日、場所及其要旨ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第四十三條 海員雇入雇止又ハ雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ船員手帖ニ公認ノ認證ノ年月日及第三十一條、第三十二條又ハ第三十五條ノ二ノ場合ニ在リテハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第四十三條ノ二 船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員手帖ニ記載シテ提出シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス

第四十四條 船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セントスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中ノ作りタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 第七號書式ノ申請書
- 二 第二十五條第二號ノ書類
- 三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖
前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在
リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載ス
ハシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原
管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第四十六條 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコ
ト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第四十七條 第十六條第一項ノ規定ハ認印及欄外ノ記載ニ關スル規定ヲ除外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條
第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字
ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ニ認印ス
ルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

第四十七條ノ二 管海官廳ハ年月日及管海官廳ノ名稱ヲ刻シタル印ヲ以テ第十七條、第十九條、第二十四條、第二十九條、
第三十六條、第三十九條、第四十二條第一項、第四十三條、第四十三條ノ二第三項、第四十六條ノ年月日ノ記載及捺印
ニ代フルコトヲ得

第四十八條 公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之
ヲ行フコトアルヘシ

第四十八條ノ二 兵役法施行令第七十八條第二項ノ規定ニ依リ身體検査ヲ受ケントスル船員ハ自ラ最寄管海官廳ニ出頭シ
船員手帖ニ第十四號書式ニ依リ船長ノ證明シタル徵兵身體検査ニ關スル乗船證明書ヲ添へ提出スヘシ
管海官廳ニ於テハ前項ノ證明書ニ貼附シタル寫眞ノ左肩ニ官廳印ヲ押捺シ左ノ文例ニ依リ證明ノ與書ヲ爲シタル後之ヲ
當該申請者ニ還付ス

(與書文例)

右證明ス

年 月 日

管海官廳名印

第五章 手数料

第四十九條 手数料ノ額左ノ如シ

- 一 船員手帖ノ交付又ハ書換 一部ニ付 二十錢
 - 二 船員手帖ノ訂正(但シ行政區劃ノ變更
ニ因ル場合ヲ除ク) 船員法第三條第二
項ノ事項一箇ニ付 五錢
 - 三 報告書ノ認證 一通ニ付 一圓
 - 四 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 二十錢
 - 五 公認 被雇者一人ニ付 十錢
被雇者一人ニ付 五錢
 - 六 公認ノ認證 一件ニ付 五錢
- 但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ
外國ニ於テ手数料ヲ納付スヘキトキハ其額ハ左ノ規定ニ依ル
- 一 報告書ノ認證 一通ニ付 二圓

二 船長就職又ハ退職ノ認證

一件ニ付

四十錢

三 公認

被雇者一人ニ付

二十錢

但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ

被雇者一人ニ付

十錢

四 公認ノ認證

一件ニ付

十錢

前二項ノ手数料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前二項ニ定ムル所ノ二倍トス

第五十條 前條第一項第一號ノ手数料ハ第八號書式ノ手数料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前條第一項第二號乃至第六號ノ手数料ハ逓信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第六章 罰 則

第五十一條 第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第二十二條ノ二第一項第三十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者第二十二條ノ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺産ヲ差出ササル者又ハ第三十五條ノ二第二項ニ定メタル證明書ノ交付又ハ公認ノ通知ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第五十二條 本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ被雇者(海員)氏名、浦役人檢印及事故摘要ノ欄ヲ除ク外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下、被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

第五十五條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 前二條ノ場合ニ於テ當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 海員ノ雇止、雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲ス

第五十九條 船員法施行ノ日ヨリ六個月間ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ

一 船舶ノ名稱、番號、積量、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

二 海員ノ氏名及本籍地

三 雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ從事シタル職務及給料

四 雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由

第六十條 從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合セタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲ストキ其各葉ニ契印スヘシ

第六十一條 第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ掲クル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス

第六十二條 最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六個月間ニ雇入ノ公認ヲ受ケル場合及該期間満了後初メテ雇入ノ公認ヲ受ケル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲シタルトキ其裏面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ

附則 (大正十二年遞信省令第八十四號)

本令ハ大正十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ汽船ニ乗組メル者ハ遲滞ナク第八條ノ二第一項ノ例ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

本令施行前交付ヲ受ケタル船員手帖ニ付テハ第九條ノ三第一項ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則 (昭和五年遞信省令第二十號)

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年^六遞信省令第二十五號第二號書式ニ依ル船員手帖ハ當分ノ間仍之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ船員手帖ヲ以テ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスル場合ニ於テハ機關ノ種類及公稱馬力ハ「積量」ノ欄ニ手當ハ「給料」ノ欄ニ併列シテ之ヲ記載スヘシ (書式省略)

△船員法第二十三條ノ規定ニ依ル送還費用ノ償還ニ關スル件

明治三十三年十二月二十八日
勅令第四百十五號

第一條 船員法第二十三條第一項ノ規定ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還シタル船長ハ本令ノ定ムル所ニ從ヒ送還費用ヲ負擔スル者ニ對シ其ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二條 送還費用ハ被送還者ノ負擔トシ被送還者ヨリ償還ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

扶養義務者ニ對スル送還費用償還ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ費用ノ償還ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ノ規定ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三條 被送還者ノ扶養義務者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ該費用ハ被送還者ノ住所地府縣、其ノ住所地ナキトキ又ハ住所分不明ナラサルトキハ其ノ到著地府縣ノ負擔トス

第四條 前條ノ場合ニ於テ被送還者ノ住所地又ハ到著地臺灣、北海道又ハ沖繩縣ニ屬スルトキハ當分ノ内國庫ニ於テ送還費用ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ送還費用ヲ負擔スル場合ニ於テモ船長ハ送還費用ノ請求書ヲ臺灣總督府、北海道廳又ハ沖繩縣廳ニ提出スヘシ

第五條 本令ニ於テ送還費用ト稱スルハ公使、領事又ハ貿易事務官ニ於テ被送還者ヲ送還スルニ適當ナリト認メタル客室ノ等級ニ相當スル運送賃ヲ謂フ

附則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

△船員最低年齡法

大正十二年三月三十日
法律第三十五號

改正 昭和二年
第二號

第一條 本法ハ勅令ノ定ムル場合ヲ除ク外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス

第二條 十四歳未満ノ者ハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル船舶又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ教習船ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業

ニ之ヲ適用セス

第二條ノ二 十八歳未満ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十八歳以上ノ者ヲ雇入ルルコト能ハサル港ニ於テハ十六歳以上ノ者ニ限り之ヲ雇入レ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ十八歳以上ノ者一人ニ代ヘ十六歳以下ノ者二人ヲ雇入ルルコトヲ要ス

専ラ日本各港間ヲ航行スル船舶ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ者ヲ使用スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主トシテ蒸汽以外ノモノニ依リ推進スル船舶又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ教習船ニ於テ年少者ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十八歳未満ノ者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ船舶内労働ニ適スルコトヲ證明シ且醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ有スルニ非サレハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ緊急已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ健康證明書ヲ有セサル者ヲ使用シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル港ニ於テ前項ノ健康證明書ヲ得シムルノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ健康證明書ヲ受クルコト能ハサル者ハ之ヲ引續キ使用スルコトヲ得ス

第一項ノ健康證明書ノ有効期間ハ之ヲ一年トス航海中其ノ期間滿了スルトキハ該航海ノ終了迄其ノ效力ヲ有スルモノト看做ス

前三項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル場合ニ之ヲ適用セス

第四條 十八歳未満ノ者ヲ船員トシテ使用スル場合ニ於テハ船長ハ其ノ本籍、氏名及生年月日ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ船舶内ニ備付クルコトヲ要ス但シ十六歳以上ノ者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ右名簿ヲ調製セサルコトヲ得

第五條 當該官吏ハ船舶ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條 船員、船員タラムトスル者、船舶所有者又ハ船長ハ船員又ハ船員タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第七條 第二條、第二條ノ二又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル船舶所有者又ハ船長ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ該當スル者未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ其ノ者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第一項ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八條 第四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 本法ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人ニ、船舶賃貸借ノ場合ニ於テハ船舶賃借人ニ之ヲ適用ス

第十條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年勅令第四八一號ヲ以テ同年十二月十五日ヨリ施行)

本法施行ノ際十四歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

本法施行ノ際十八歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付雇入期間ノ滿了迄第三條ノ規定ハ之ヲ適用セス雇入期間滿了ノ際航海中ノ者ニ付テハ該航海ノ終了迄之ヲ適用セス

附 則 (昭和二年法律第二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第十二號ヲ以テ同年二月二十日ヨリ施行)

本法施行ノ際十八歳未満ノ者ヲ石炭夫又ハ火夫トシテ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セス

三六

△船員最低年齢法施行令

大正十二年十一月二十日
勅令第四百八十二號

改正 昭和三年
第一三號

第一條 船員最低年齢法第二條ノ二及第三條ノ規定ハ漁業ニ従事スル船舶又ハ總噸數二十噸未満若ハ積石數二百石未満ノ船舶ノ船員ニ之ヲ適用セス

第二條 船員最低年齢法第四條ニ定ムル名簿ハ漁業ニ従事スル船舶又ハ總噸數二十噸未満若ハ積石數二百石未満ノ船舶ニ在リテハ十六歳以上ノ船員ニ付之ヲ調製スルコトヲ要セス

第三條 船員最低年齢法ハ同法第二條ノ二及第三條ノ規定ヲ除クノ外總噸數三十噸未満又ハ積石數三百石未満ノ漁業ニ従事スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ大正十二年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和三年勅令第十三號)

本令ハ昭和三年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

△船員最低年齢法施行細則

大正十二年十一月二十日
逓信省令第九十六號

改正 昭和三年
第六號

第一條 船員最低年齢法第二條第二項及第二條ノ二第三項ニ依ル認可ヲ受ケムトスルトキハ教習船ニ於テ教習ヲ爲サシメ

ムトスル者ヨリ其ノ住所又ハ主タル事務所所在地(學校其ノ他之ニ準スヘキモ)ヲ管轄スル逓信局長ニ左ノ事項ヲ記載セル申請書ヲ提出スヘシ

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及其ノ住所又ハ主タル事務所所在地(學校其ノ他之ニ準スヘキモ)
- 二 教習船ノ種類、船名、總噸數、船籍港及所有者ノ氏名又ハ名稱
- 三 教習ノ目的

四 教習生ノ員數並十四歳未満(石炭夫又ハ火夫ニ付テハ十八歳未満)ノ教習生ノ氏名、本籍及年齢

五 十四歳未満(石炭夫又ハ火夫ニ付テハ十八歳未満)ノ教習生ニ爲サシムル作業ノ種類、方法及期間並其ノ作業ヲ爲サシムル教習船ノ豫定航路

六 船舶職員及教員ノ氏名、資格及分擔職務又ハ學科

逓信局長ハ前項ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ附シ之ヲ認可スヘシ
逓信局長ハ申請ニ依リ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者同條第一項第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受クヘシ但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ豫メ認可ヲ受クルコト能ハサルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ所轄逓信局長ノ追認ヲ受クヘシ
前條第一項第一號乃至第四號又ハ第六號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ同條ノ認可ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク所轄逓信局長ニ届出ツヘシ

第二條ノ二 船員最低年齢法第二條ノ二第二項ノ規定ニ依リ十八歳未満ノ石炭夫又ハ火夫ヲ雇入ルルコトヲ得ル船舶ハ總噸數二千噸ヲ超エサルモノニ限ル

第三條 船員最低年齢法第三條ノ健康證明書ハ別表健康検査合格標準ニ依リ作成シタルモノナルコトヲ要ス

第四條 船長ハ船員トシテ使用スル十八歳未満ノ者ヲシテ健康證明書ヲ提出セシメ其ノ使用中之ヲ保管スヘシ

第五條 船長ハ船員最低年齢法第三條第一項但書ノ規定ニ依リ船員トシテ使用セル者ヲシテ健康證明書ヲ得シムル爲該證

明書ヲ受クルニ適當ナル最初ノ到着港ニ於テ必要ナル一切ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 船員最低年齢法第四條ノ名簿(少年船員名簿ト稱ス)ハ第一號書式ニ依ル

少年船員名簿ノ記載事項ハ常ニ之ヲ整理シ現狀ニ適合セシムヘシ

第七條 船長ハ其ノ保管ニ係ル健康證明書ヲ少年船員名簿ニ記載セル船員ノ氏名順ニ依リ整理補綴スヘシ

第八條 船員最低年齢法第五條ノ證票(船舶臨檢證票ト稱ス)ハ第二號書式ニ依ル

船舶臨檢證票ハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第九條 管海官廳又ハ船員法ニ依リ指定セラレタル市町村長ハ十八歳未満ノ船員ノ雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ第三條ノ健康

證明書ヲ呈示セシムヘシ

第十條 船長ハ雇入ノ公認ヲ受クルヲ要セサル十六歳未満(石炭夫又ハ火夫ニ付テハ十八歳未満)ノ船員ヲ使用シタルトキ

ハ其ノ氏名、本籍及年齢ヲ其ノ乗組メル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ大正十二年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年法律第三十五號附則第二項ノ規定ニ依リ十四歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ其ノ氏名、本籍及年齢ヲ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ其ノ船員ノ乗組メル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ届出ツヘシ大正十二年法律第三十五號附則第三項ノ規定ニ依リ同法第三條ノ規定ニ依ラスシテ十八歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ其ノ氏名、本籍、年齢、雇入期間並乗組船舶ノ名稱及航海終了豫定期日ヲ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ其ノ船員ノ乗組メル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ届出ツヘシ

附則 (昭和三年逡信省令第六號)

本令ハ昭和三年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際十八歳未満(専ラ日本各港間ヲ航行スル船舶ニ於テハ十六歳未満)ノ石炭夫又ハ火夫ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ雇者ハ其ノ氏名、本籍及年齢ヲ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ該船員ノ乗組メル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ届出ツヘシ (書式省略)

△船員職業紹介法

大正十一年四月十一日 法律第三十八號

第一條 本法ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ムヘキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用ス

本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲クル者以外ノ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第二條 船員職業紹介事業ヲ行ハムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 船員職業紹介ニ關シ必要アリト認ムルトキハ政府ニ於テ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル法人其ノ他ノ團體ヲシテ職業紹介事業ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ報酬トシテ手數料其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受ク

ルコトヲ得ス

第五條 船員職業紹介事業ノ管理及連絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介委員會ヲ置ク逡信大臣之ヲ監督ス

船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 船員職業紹介事業ハ逡信大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ船員職業紹介事業ノ監督上必要ナル場合ニ於テハ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實

地ニ就キ業務又ハ會計ヲ檢閲スルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 許可ヲ受ケスシテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者
 - 二 船員職業紹介ヲ爲シ其ノ報酬トシテ手數料其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ受ケシメタル者
- 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者強請シテ職業ノ紹介ヲ爲シタルトキ亦前項ノ例ニ同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正一二年勅令第四九七號ヲ以テ大正一二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス)

本法施行ノ際現ニ無料ノ船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ本法施行後二月以内ニ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

本法施行ノ際現ニ有料又ハ營利ヲ目的トスル船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得

△船員職業紹介法施行規則

大正十一年十一月十八日
逓信省令第六十五號

改正 昭和五年第四一號、九年第五〇號

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ職業紹介ト稱スルハ就職ノ媒介及求人又ハ求職ノ告知ヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ所轄管海官廳ト稱スルハ船員職業紹介所ノ所在地ヲ管轄スル逓信局又ハ逓信局海事部出張所ヲ謂フ

第三條 逓信大臣ハ船員ノ職業紹介ヲ行フ者ニ對シ業務ノ統一並求人及求職ノ調節ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ管海官

廳ヲシテ命セシムルコトアルヘシ

第二章 無料職業紹介

第四條 船員職業紹介法第二條及附則第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ニ履歴書及戶籍謄本ヲ添ヘ主タル船員職業紹介所ノ所轄管海官廳ヲ經由シ之ヲ逓信大臣ニ提出スヘシ

一 氏名又ハ名稱、本籍及住所

二 船員職業紹介所ノ所在地

三 船員職業紹介所ノ設備、開所豫定年月日

四 船員職業紹介ニ關スル諸規程

法人又ハ團體ニ在リテハ前項ノ申請書ニ定款又ハ之ニ準スヘキ約款、事業成績、資産ノ狀況並理事其ノ他ノ代表者ノ氏名、本籍、住所及履歷ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

逓信大臣ハ必要ナシト認ムルトキハ前二項ニ掲クル書類ノ全部又ハ一部ノ添附ヲ免除スルコトアルヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス船員職業紹介所設置ノ必要ヲ認メサルトキ亦同シ

一 禁治産者及準禁治産者

二 犯罪ニ因リ刑ニ處セラレ改悛ノ狀ナシト認ムル者

三 破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四 其ノ他船員職業紹介事業ヲ行フニ適セスト認メタル者

船員職業紹介事業經營ノ許可ヲ受ケタル者前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ許可ヲ取消ス

第六條 船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ期間ヲ限リ事業經營ノ停止ヲ命シ又ハ事業經營ノ許可

ヲ取消スコトアルヘシ法人又ハ團體ニ在リテハ理事其ノ他ノ代表者カ第一號又ハ第二號ニ該當スル場合亦同シ

一 船員職業紹介ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二 事業ノ經營上不正ノ所爲アリト認ムルトキ

三 許可ヲ受ケタル後三月内ニ事業ヲ開始セス又ハ引續キ三月以上事業ヲ休止シタルトキ

第七條 船員職業紹介事業ヲ行フ者紹介所ノ所在地若ハ設備ヲ變更シ又ハ紹介所ヲ増設セムトスルトキハ豫メ紹介所ノ所在地又ハ紹介所ヲ増設セムトスル地ヲ管轄スル遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滯ナク紹介所毎ニ其ノ從業者ノ氏名、住所及履歴ヲ記載シタル書面ヲ所轄管海官廳ニ提出スヘシ

第八條ノ二 船員職業紹介所從業者紹介所外ニ於テ業務ニ從事スルトキハ船員職業紹介所從業者證票ヲ携帶シ當該官吏又ハ利害關係者ノ請求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

船員職業紹介所從業者證票ハ第一號書式ニ依ル

第八條ノ三 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ所轄管海官廳ニ船員職業紹介所從業者證票ノ交付ヲ申請スヘシ

第八條ノ四 船員職業紹介事業ヲ行フ者紹介所從業者證票ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ其ノ書換ヲ要スルトキハ遲滯ナク所轄管海官廳ニ届出テ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

船員職業紹介事業ヲ行フ者廢業、死亡又ハ法人ニシテ解散シタルトキハ遲滯ナク紹介所從業者證票ヲ所轄管海官廳ニ返還スヘシ

紹介所從業者證票ヲ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第九條 遞信局長ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ不適當ト認ムルトキハ船員職業紹介事業ヲ行フ者ニ對シ從業者ノ解任ヲ命シ又ハ設備ノ改善ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十條 船員職業紹介事業ヲ行フ者第四條第一項第四號ノ諸規程ヲ變更セムトスルトキハ所轄管海官廳ヲ經由シ豫メ遞信

大臣ノ認可ヲ受クヘシ

船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本人(第三號ノ場合ニハ其ノ家族又ハ戶主、第四號ノ場合ニハ其ノ清算人)ヨリ遲滯ナク所轄管海官廳ヲ經由シ遞信大臣ニ届出ツヘシ

一 第四條第一項第一號ニ掲クル事項、定款、約款又ハ理事其ノ他ノ代表者、其ノ氏名、本籍、住所ニ變更ヲ生シタルトキ

二 廢業シタルトキ

三 死亡シタルトキ

四 法人解散シタルトキ

第十一條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滯ナク所轄管海官廳ニ届出ツヘシ

一 一月以上引續キ休業セムトスルトキ

二 從業者死亡シタルトキ又ハ之ヲ解任シタルトキ

第十二條 船員職業紹介事業ヲ行フ者外國船舶ニ對シ船員ノ職業紹介ヲ爲シタル場合ニ於テ就職者日本人ナルトキハ當該船舶所有者又ハ船長ヲシテ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ通テ作成セシメ乗船前ニ一通ハ之ヲ就職者ニ交付シ一通ハ之ヲ所轄管海官廳ニ差出スヘシ

一 船種、船名及總噸數

二 船籍港及就職期間中航行區域

三 船舶所有者及船長ノ氏名又ハ名稱並國籍

四 就職者ノ氏名、年齢、本籍及住所

- 五 就職者ノ職務、給料及手當ノ額並食料ニ關スル取極
- 六 乗船地、乗船年月日及就職期間
- 七 契約ノ解除及終了ノ原因並此等ノ場合ニ於ケル當事者間ノ權利及義務
- 八 乗船地以外ノ地ニ於テ下船スル場合ノ送還ニ關スル取極
- 九 其ノ他契約ノ内容ヲ明ニシ得ヘキ事項

就職者未成年者ナルトキハ法定代理人ノ就職許可書ヲ徴シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘキ前項ノ書面ニ添附スヘシ
第一項ノ書面外國語ヲ以テ作成セラレタルトキハ日本語ノ譯文ヲ附スヘシ

第十三條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス事實ヲ虚構シテ船員タルヘキコトヲ勧誘シ又ハ勧誘セシムルコトヲ得ス

第十四條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ船員ノ下船又ハ雇傭契約ノ廢棄ヲ勧誘シ又ハ勧誘セシムルコトヲ得ス

第十五條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ求人者又ハ求職者ト金品ノ授受貸借ヲ爲シ、求人者又ハ求職者ニ代リ金品ヲ授受シ又ハ求職者ノ所持スル物品ヲ買受ケ、擔保トシテ受取り若ハ質入賣却ノ周旋ヲ爲スヘカラス但シ豫メ所轄管海官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル業務ヲ爲スコトヲ得ス但シ豫メ其ノ業務ヲ行ハムトスル地ヲ管轄スル遞信局長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 兩替

二 質屋

三 酒類販賣

四 日用品ノ販賣

五 飲食店、宿泊所其ノ他類似ノ業務

船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ前項各號ノ業務ヲ爲ス者ト通謀シテ利ヲ圖ルコトヲ得ス

第十七條 船員職業紹介事業ニ從事スル者ハ故ナク其ノ業務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ秘密ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第十八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ正當ノ事由ナクシテ紹介ノ申込ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 二箇以上ノ紹介所ニ紹介ノ申込ヲ爲ス者ハ其ノ旨申出ツヘシ

第二十條 紹介ハ申込ノ順序ニ依ル但シ正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 求職ノ申込ハ申込ノ日ヨリ起算シ管海官廳ノ公示スル期間ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ期間ハ申込者ニ於テ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ申込ノ順序ハ變更セラレルコトナシ

船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ求職申込ノ有効期間滿了前ニ於テ申込者ニ對シ期間更新ノ意思ヲ確ムルニ付適當ノ措置ヲ執ルヘシ

第二十二條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ求人票及求職票ヲ備ヘ取扱ノ都度遲滞ナク之カ記入ヲ爲スヘシ

求人票及就職ノ契約成立シタル者ノ求職票ハ最後記入ノ日ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

求人票及求職票ハ第二號書式ニ依ル

第二十三條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ毎月紹介成立シタルモノニ在リテハ其ノ求職票ノ寫ヲ、紹介成立セサルモノニ在リテハ第三號書式ノ報告書ヲ紹介所毎ニ取纏メ翌月五日迄ニ所轄管海官廳ニ提出スヘシ

第三章 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介

第二十四條 船員職業紹介法附則第三項ノ規定ニ該當スル者(以下單ニ營業者ト稱ス)其ノ業務ヲ繼續セムトスルトキハ船

員職業紹介法施行後二月内ニ紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ許可ヲ申請スヘシ

前項許可ノ申請ニ付テハ未成年者ニ在リテハ法定代理人、妻ニ在リテハ夫ノ連署ヲ要ス

遞信局長第一項ノ申請ニ基キ許可ヲ與フル場合ニ於テハ之ニ期間ヲ附スヘシ

遞信局長ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

營業者ハ第一項ノ許可ノ申請ニ對シ許否ノ決定アル迄其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

第二十五條 營業者ハ手数料ヲ定メ船員職業紹介法施行後遲滯ナク紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ認可ヲ申請スヘシ

遞信局長必要アリト認ムルトキハ手数料ヲ定メ又ハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條 營業者ハ求職者ニ手数料ノ半額ヲ超ユル額ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

第二十七條 營業者ハ就職ノ契約成立シタル後ニ非サレハ手数料ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十八條 營業者ハ手数料ヲ紹介所ニ於ケル見易キ所ニ揭示スヘシ

第二十九條 營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス遞信局長ノ定メ又ハ認可シタル手数料ヲ超エテ財産上ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外前章ノ規定ヲ準用ス

第四章 罰 則

第三十一條 船員職業紹介事業ヲ行フ者又ハ其ノ從業者正當ノ事由ナクシテ紹介ノ申込ヲ拒ミ又ハ申込ノ順序ヲ變更シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式省略)

附 錄

△船舶法拔萃

明治三十二年三月八日
法律第四十六號

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

△船舶安全法拔萃

昭和十年三月十五日
法律第十一號

第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 船體
 - 二 機關
 - 三 帆裝
 - 四 排水設備
 - 五 操舵、繫船及揚錨ノ設備
 - 六 救命及消防ノ設備
 - 七 居住設備
 - 八 衛生設備
 - 九 航海用具
 - 十 危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備
 - 十一 荷役其ノ他ノ作業ノ設備
 - 十二 電氣設備
 - 十三 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項
- 前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ
- 一 總噸數五噸未満ノ船舶
 - 二 櫓權ヲ以テ運轉スル舟其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶
- 第十三條** 船舶乗組員二十人未満ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

第二十八條 危險物ノ運送禁止、遭難者救助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事項竝ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

- 一 總噸數二十噸未満ノ帆船
- 二 總噸數二十噸未満ノ漁船
- 三 平水區域ノミヲ航行スル帆船

△船舶安全法施行規則拔萃
昭和九年二月一日
遞信省令第四號

第十五章 船舶乗組員ノ不服申立

第四百十四條 船舶乗組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ當該船長ニ提出スベシ

- 一 重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現狀
- 二 申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顛末

第四百十五條 船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶検査手帖ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶が管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滯ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

第四百四十六條 船舶ノ發航直前ニ於テ第四百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載、積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレハ分明シ難キモノナル場合ヲ除クノ外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ得

第四百四十七條 管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ノ出頭ヲ求メ又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス
管海官廳申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ船長及申立人ニ通告ス

第十七章 航海上ノ危険防止

第五百五十五條 本章中第五百五十六條乃至第六十九條ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ、其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第五百五十六條 船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乗組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲特ニ之ヲ乗組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減ジ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 定員四十人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人
 - 二 定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人
 - 三 定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人
 - 四 定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人
- 前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム

船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ

船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乗組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ
船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ、無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ

船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲甲板部職員ヲ指定シ置クベシ

第五百五十七條 船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付左ノ事項ニ關スル船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

- 一 水密戸、弁等ノ閉鎖
 - 二 救命艇、救命筏及救命浮器ノ艤裝
 - 三 端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方
 - 四 前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備
 - 五 旅客ノ召集
 - 六 火災ノ消防
- 召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ
- 一 旅客ニ警報スルコト
 - 二 旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ着用セルコトヲ確ムルコト

三 旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト

四 通路及階段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト

召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲ノ一定ノ信號ヲ記載スベシ

第二百五十八條 船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取附クル水密蝶番戸ヲ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第二百五十九條 機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ

前項ノ板戸ハ其ノ接合部ガ水密ヲ保ツ様之ヲ取附クベシ

第六十條 船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル様常ニ準備シ置クベシ

第六十一條 船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル何レカノ舷窓ノ下縁ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・二七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前該舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帯ニ在ル場合又ハ熱帯季節ニ季節熱帯ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ一・二七メートルトアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得

船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規定ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中ノ開放スベカラズ

第六十二條

前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ鍵ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ

前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ鍵ヲ保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル様必要ナル處置ヲ爲スベシ

第六十三條

船長ハ發航前航行中近寄り難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ヅベシ

船長ハ發航前限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第六十四條

灰棄筒、芥棄筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船内開口ガ限界線下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取附ケタル自働不還弁及開口ノ蓋ヲ締附ケ置クベシ

第六十五條

船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ毎週一回船員ヲ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行フベシ

航前之ヲ行フベシ

端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

第六十六條

船長ハ水密戸、舷窓、弁竝ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖裝置ノ操作ノ操練ヲ毎週一回行フベシ

又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クトモ毎週一回之ヲ行フベシ但シ主横置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中閉閉スルコトアルモノハ毎日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器竝ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル弁ハ航海中少クトモ毎週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ

第六十七條

前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル様且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時

ノ使用ノ爲準備セラルル様之ヲ行フベシ

第六十八條

船長ハ航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ

旅客召集ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス

前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船橋ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船内ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス
旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種々ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

第百六十九條 船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ

第百七十條 操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方向ヲ直接ニ示ス語ヲ使用スベシ

第百七十一條 流水、委棄物、熱帶暴風雨(「ハリケーン」、「タイフーン」、「サイクローン」)及之ト同様ノ性質ヲ有スルモノ其ノ他航海ニ直接ノ危険ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ムル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ

前項ノ通報ハ別ニ告示スル様式ニ依ルベシ

第百七十二條 無線電信ヲ施設シタル船舶全強風以上ノ風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ

第百七十三條 船舶ハ重大且急迫ノ危険ニ陥リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限り緊急信號及遭難信號ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ緊急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ

緊急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其ノ旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ

第百七十四條 船長無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタルトキハ能フ限りノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但シ遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能フ限り協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スル

コトヲ得

前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ

無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クヲ不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ

第百七十五條 北大西洋横斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ採ラシムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ

△船舶設備規程拔萃

昭和九年二月一日
逕信省令第六號

第三編 居住及衛生設備

第五章 衛生設備

第百十六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ船舶検査證書ニ掲グル旅客定員一人ニ付〇・四五平方メートルノ割合ヲ以テ上甲板以上ノ閉塞セラレザル場所ニ適當且安全ナル運動場ヲ設クベシ

第百十七條 旅客船ニハ最大搭載人員五十人ニ對シ一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クベシ但シ最大搭載人員三百人以上ノ船舶、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シテ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ航海ヲ爲ス船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

第百十八條 移民船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ病室ヲ設ケ最大搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇、二百人ヲ超ユル人員ニ付テハ超過人員六十人毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ寢臺ヲ備フベシ病室ハ一・八三メートル以上ノ高サヲ有シ且收容人員一人ニ付四立方メートル以上ノ容積ヲ有

スルコトヲ要ス

第一百十九條 前條ノ病室及寢臺ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 病室ノ一部ハ之ヲ隔離室ト爲シ病室用寢臺ノ四分ノ一以上ヲ設備シ得ル構造ト爲スベシ

二 病室ニハ規定ノ數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スベシ

三 寢臺ハ金屬製ニシテ長サ一・八三メートル以上幅六〇センチメートル以上ノモノトシ之ヲ上下ニ重ヌルコトナク其ノ一側ニ幅一メートル以上ノ通路ヲ存シ据附クベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ寢臺ヲ上下ニ重ネテ配置スルコトヲ得

第二百十條 移民船ニハ病室附屬ノ浴室、便所、診療室並ニ藥局ヲ設クベシ但シ藥局ハ之ヲ診療室ニ兼用スルモ妨ナシ

第二百十一條 移民船ハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスル際該港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ

航行豫定時間ニ應ジ特殊船検査證書ニ掲グル旅客ニ對シ支給スベキ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ

第二百十二條 移民船ニハ第三號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

△民法

第三篇 債權 第二章 契約

第八節 雇 傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代リテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ニ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六ヶ月上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三ヶ月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラズ

第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

(第六百二十條、賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタル

トキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

(附)舊民法財産取得編 明治二十三年四月二
十一日法律第二十八號

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約

第二百六十條 使用人、番頭、手代、職工其他ノ雇傭人ハ年、月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

第二百六十一條 雇傭ノ期間ハ使用人、番頭、手代ニ付テハ五ヶ年職工其他ノ雇傭人ニ付テハ一ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス但雇傭契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨ケス

此ヨリ長キ時期ヲ約シタルニ於テハ當事者ノ一方ノ隨意ニテ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲ス權能ヲ妨ケス

第二百六十二條 雇傭ハ時期ヲ定メタルトキト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且已ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス

如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス

第二百六十三條 雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從ヒ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與セシムルコトヲ得

第二百六十四條 如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相續人ハ給料又ハ賃銀ノ取越過額ヲ返還ス

第二百六十五條 上ノ規定ハ角力、俳優、音曲師其他ノ藝人ト座元興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭契約ニ之ヲ適用ス

第二百六十六條 醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ雇傭人ト爲ラス此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒ニ諾約シタル世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ又患者、訴訟人又ハ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諾約ヲ得タル後其世話ヲ受クル責ニ任セス

然レトモ實際世話ヲ與ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ合意トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコトヲ得

此等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒絶シタル者ハ其拒絶ヨリ此等ノ者ニ金錢上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ拒絶シタル者ハ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第二節 習業契約

第二百六十七條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ習業者ニ自己ノ職業上ノ知識ト實驗トヲ傳授シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助力スルコトヲ約スルコトヲ得

未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ保佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ習業契約ヲ取結フコトヲ得ス

第二百六十八條 合式ニ保佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ取結ヒタル習業契約ハ其未成年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス但習業者カ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

第二百六十九條 習業契約ハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ヲ定ム

習業契約ハ不備ハ師匠又ハ親方ノ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補完スルコトヲ得

第二百七十條 師匠又ハ親方ハ習業者ニ衣食及ヒ職業ノ器具ヲ與ヘ且日常ノ使用ヲ足ラシムルコトヲ要ス但反對ノ合意ナク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル

師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ學フコトヲ得セシムル爲メ必要ナル時間ヲ與ヘ世話ヲ爲シ及ヒ諸般ノ便利ヲ圖ルコトヲ要ス

未成年ノ習業者カ未タ算筆ヲ知ラサルトキハ師匠又ハ親方ハ何等ノ反對ノ合意アルモ習業者ニ算筆修習ノ爲メ休憩時間外ニ於テ毎日少ナクトモ一時間ヲ與フルコトヲ要ス

第二百七十一條 習業者ハ其習ハント欲スル職業ニ關シ日日ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スルコトヲ要ス

第二百七十二條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他ノ不可抗ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞務ヲ供スルコト能ハサルトキハ習業者ハ其成年ニ達シタル後ト雖モ習業契約ノ期限滿了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時間ヲ補足スルコトヲ要ス

第二百七十三條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然終了ス

第一 師匠、親方又ハ習業者ノ死亡

第二 師匠、親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ現役

第三 師匠、親方又ハ習業者ノ重罪又ハ三ヶ月ヲ超ユル禁錮ノ處刑

第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期間ノ滿了

第二百七十四條 左ノ原因アルトキハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解除ヲ宣告スルコトヲ得

第一 相互ノ業務ノ不履行但不可抗ノ原因ニ由ルトキモ亦同シ

第二 習業者ニ對スル師匠又ハ親方ノ苛酷ナル取扱

第三 習業者ノ平常ノ不品行

第四 前條ニ掲ケタル場合ノ外師匠、親方又ハ習業者ノ犯罪

第五 契約ヲ履行ス可キ土地外ニ師匠又ハ親方ノ轉居

本條ニ依リテ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ自己ニ過失アルトキハ他ノ一方ニ對シテ尙ホ其損害ヲ賠償ス可キヲ言渡ヲ受ク前條ニ掲ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

△商 法

第一編 總 則

第六章 商業使用人

第二十九條 商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ得

第三十條 支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十條ノ二 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ主人ニ對シテ其効力ヲ生ス

第三十一條 支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス

前條第一項ニ定メタル事項及ヒ其變更並ニ消滅亦同シ

第三十二條 支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

支配人カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ以テ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做ス
コトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ主人カ其行爲ヲ知りタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタル
トキ亦同シ

第三十三條 商人カ番頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スルコトヲ得
番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 支配人、番頭又ハ手代ニ非サル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノト推定ス

第三十五條 本章ノ規定ハ主人ト商業使用人トノ間ニ生スル雇傭關係ニ付キ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

△勞働爭議調停法

大正十五年四月八日
法律第五十七號

第一條 左ニ掲クル事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得
當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ

一 蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ需要ニ應スル運輸事業

二 公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ電話ノ事業

三 公衆ノ需要ニ應スル水道、電氣又ハ瓦斯供給ノ事業

四 第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止カ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク阻害スル
モノ

五 其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

六 陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

前項ニ掲クル以外ノ事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコ
トヲ得

第二條 調停委員會ヲ開設セムトスルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ

第三條 調停委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ内六人ハ勞働爭議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人
ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ爭議ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス

前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四條 勞働爭議ノ當事者第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ三日内ニ前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル委
員ヲ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

當事者前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ササルトキハ行政官廳ハ當事者ニ代リ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタルモ
ノト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル手續終リタルトキハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定ス
ヘキ委員ノ選定ヲ要求スヘシ此ノ場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員ハ四日内ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ届出ツルコト
ヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル届出ナキトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ前項ノ規定ニ依リ選定スヘキ委員ヲ選定ス
此ノ委員ハ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定シタルモノト看做ス

第五條 委員中缺員ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ準シ之ヲ補充ス

第六條 委員定リタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員會ヲ招集シ之ヲ開會スヘシ

第七條 調停委員會ニ議長及其ノ代理者ヲ置ク議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ互選
ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ抽籤ニ依ル

第八條 調停委員會ハ労働爭議ノ解決ニ必要ナル調査審理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲スモノトス

第九條 調停委員會ハ開會ノ日ヨリ十五日内ニ調停手續ヲ結了スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ當事者ノ選定シタル委員全員ノ同意アリタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 調停委員會ハ議長又ハ其ノ代理者及各當事者ノ選定シタル委員各二名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十一條 調停委員會ノ議事ハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開セス

行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ臨席セシムルコトヲ得

第十三條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席説明ヲ求メ又ハ説明書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業所其ノ他爭議ノ關係場所ニ立入り、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ知得タル秘密ヲ洩スルコトヲ得ス

第十六條 第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ノ場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ顛末ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ労働爭議解決スルニ至ラザリシトキハ調停委員會ハ其ノ報告ニ委員會ノ決議セル爭議調停案及之ニ關スル少數意見ヲ表示スルコトヲ要ス

第十七條 行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ要旨ヲ公表スヘシ但シ労働爭議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全員カ豫メ反對ノ意見ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ弁償ヲ受クルコトヲ得

第十九條 第一條第一項ニ掲グル事業ニ於ケル労働爭議ニ關シ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ現ニ其ノ爭議ニ關係アル使用者及労働者並其ノ屬スル使用者團體及労働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ニ至ル迄左ニ掲グル目的ヲ以テ其ノ爭議ニ關係アル使用者又ハ労働者ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

一 使用者ヲシテ労働爭議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ勞務繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト
二 労働者ノ集團ヲシテ労働爭議ニ關シ勞務ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

第二十條 故ナク第十三條ニ規定スル出席説明又ハ説明書類ノ提示ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ説明ヲ爲シタル者

二 故ナク第十四條ノ規定ニ依ル立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第九十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

△労働爭議調停法施行令

大正十五年六月二十三
日勅令第九十六號

第一條 労働爭議調停法及本令ニ依ル行政官廳ノ職務ハ爭議ノ發生シタル作業所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警

視總監以下之ニ同シ之ヲ行フ

同一ノ爭議カ前項ノ規定ニ依リ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ涉ルトキハ内務大臣ハ其ノ一ヲ指定シテ前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條 内務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル行政官廳ヲ指定シテ前條第一項ノ職務ヲ行ハシメ又ハ自ら之ヲ行フコトヲ得但シ内務大臣其ノ指揮監督ノ下ニ在ラサル行政官廳ヲ指定セムトスルトキハ豫メ其ノ所管大臣ト協議スルコトヲ要ス

第三條 第一條ニ於テ地方長官トアルハ船員法ノ適用アル船員ノ爭議ニ付テハ遞信局長トシ前二條ニ於テ内務大臣トアルハ船員ノ爭議ニ付テハ遞信大臣トス

第四條 調停委員會開設ノ請求ハ左ノ事項ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 爭議ノ發生シタル作業所ノ名稱及所在地
- 二 爭議ニ關係アル労働者ノ概數
- 三 代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ足ルヘキ事項
- 四 調停委員會ニ關スル通知ヲ受クヘキ場所
- 五 爭議ノ要求事項
- 六 爭議ノ經過概要

第五條 當事者ノ一方ヨリ調停委員會開設ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 調停委員會ヲ開設セムトスル旨ノ通知ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

行政官廳前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第七條 調停委員會労働爭議調停法第九條ノ規定ニ依リ調停手續ヲ結了シタルトキ又ハ其ノ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ

其ノ旨ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ報告アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第八條 調停委員會ノ議事ニ關スル總テノ書類ハ労働爭議調停法第十六條ニ規定スル報告ト共ニ之ヲ行政官廳ニ提出スレコトヲ要ス

第九條 労働爭議調停法第十八條ノ規定ニ依リ辨償ヲ受クルコトヲ得ル費用ハ旅費、日當及止宿料トス
前項ノ旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

附則

本令ハ労働爭議調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年七月一日ヨリ施行)

(別表省略)

△工場法

明治四十四年三月二十八日
法律第四十六號

改正 大正一二年第三三號
昭和四年第二一號

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

- 一 常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ
 - 二 事業ノ性質危険ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ
- 本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條 削除

第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得
就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條 削除

第六條 削除

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ
前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設ケル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限り第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限り第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亘ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限り行政官廳ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セス

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限り就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

適用セス

第九條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性、發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム
前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産前、産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得
第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病者ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第十六條 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タ

ラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年人者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス但シ工

業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 本法ニ依リ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第三條、第四條、第七條乃至第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得但シ第三條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ適用後二年以内同條ノ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年五月勅令第百五十六號ヲ以テ九月一日ヨリ施行)

附則 (大正十二年法律第三十三號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年六月五日勅令第百五十二號ヲ以テ大正十五年七月一日ヨリ施行)

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス
前項ノ規定ニ依リ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

工場法中左ノ通改正ス

第十五條ノ二 工業主前條ノ規定ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

工業主及職工ノ出捐スル共済組合勅令ノ定ムル所ニ依リ工業主ヲシテ扶助ヲ爲スラ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第十五條ノ三 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第十五條ノ四 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工場法第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第十五條ノ三ノ規定ヲ適用ス

△工場法施行令

大正五年八月三日
勅令第百九十三號

改正大正一一年第四七一號、一五年
第一五三號、昭和四年第二〇二號

第一章 通則

第一條 左ニ掲クル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ定ムル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ麩ノ製造

二 行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、藤、竹、竹ノ皮、經木、蔓、葦又ハ藁ノ手工品ノ製造

三 經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製

四 「アタン」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製

五 扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造

六 紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造

七 形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造

八 手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫

九 手工ニ依ル組紐ノ編製

一〇 刺繡、「レース」、「バテンレース」又ハ「ドローンウオーク」ノ業

第二條 鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條 左ニ掲クル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス

一 毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造

二 動物ノ剥製

三 水銀ヲ用フル計器ノ製造

四 水銀唧筒ヲ用フル魔法燻ノ製造

五 鉛ヲ用フル鑪ノ製造

六 磁瑯鐵器又ハ磁瑯藥ノ製造

七 塗料、顔料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造

八 亞硫酸瓦斯、「クロール」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業

九 硫黃ノ精製

一〇 「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理

- 一 「ファクチス」ノ製造
- 二 脂肪油ノ精製
- 三 「ボイル」油ノ製造
- 四 乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造
- 五 溶劑ヲ用フル護膜製品ノ製造
- 六 溶劑又ハ「ラバーセメント」ヲ用フル護膜製品ノ貼合
- 七 溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
- 八 溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
- 九 溶劑ヲ用フル野草薙ノ捺染
- 一〇 溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
- 一一 溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」(單ニ拂拭スルモノヲ除ク)
- 一二 溶劑ヲ用フル絆創膏ノ製造
- 一三 「タンニン」酸ノ製造
- 一四 合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
- 一五 「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工
- 一六 硝化綿ノ製造
- 一七 「コロヂウム」ヲ用フル紙撚製品ノ製造
- 一八 「エーテル」ノ製造
- 一九 酒精ノ製造又ハ變性

- 二〇 「ヴィスコーズ」ノ製造
- 二一 「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
- 二二 鑛油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
- 二三 「アスファルト」ノ精製
- 二四 瀝質物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造
- 二五 燐寸ノ製造
- 二六 火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
- 二七 金屬ノ熔融又ハ精煉
- 二八 電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
- 二九 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
- 三〇 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷
- 三一 動力ニ依ル製材
- 三二 電氣業(發電所、變電所、蓄電所及開閉所)
- 三三 電球ノ製造
- 三四 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎
- 三五 金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨
- 三六 動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
- 三七 動力ニ依ル鑛石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
- 三八 電氣用「カーボン」ノ製造

四 石炭瓦斯又ハ骸炭ノ製造

五 「カーバイト」ノ製造

六 石灰ノ製造

七 「フェルト」又ハ吹付羅紗(粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗)ノ製造

八 起毛又ハ反毛ノ作業

九 製綿

十 麻ノ梳解

十一 古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ襪襪類ノ選別

十二 骨炭又ハ血炭ノ製造

十三 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠

十四 毛髮又ハ羽毛ノ精製

十五 其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受ク

ヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタル

トキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲

クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ 賃金五百四十日分以上

二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金三百六十日分以上

三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ 賃金百八十日分以上

四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル 賃金四十日分以上

モノ

第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テ

ハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分

以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬

祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額二十圓ニ滿チサルトキハ三十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬ト

シ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
 - 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
 - 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
 - 四 前三號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
- 第十二條** 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ
- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主
 - 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者
 - 三 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者
- 第十三條** 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條ノ二** 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ
- 職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス
- 健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ

前三項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年內ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ
- 二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 職工健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額
- 二 職工健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ依ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三月間(雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

- 二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業シタル期間
- 三 試ノ雇傭期間

四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セラルル手當ニシテ内務大臣ノ定ムルモノヲ包含セス
前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第三章 職工ノ雇入及解雇

第二十一條 工場主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ内務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信認金其ノ他何等ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト

二 職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セラルル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 削除

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工、業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條ノ二 工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲クル期間ハ之ヲ算入セズ

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業スル期間但シ其ノ期間引續キ一月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス

二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間

三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試メノ雇傭期間中ノ職工ニ付テ之ヲ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一日)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第二項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付スヘシ

第二十七條ノ四 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項

二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項

三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項

四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

五 解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四章 徒弟

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト

二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト

三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受クルコト

四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セラルルコト

第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一 徒弟ノ員數

二 徒弟ノ年齢

三 指導者ノ資格

四 教習ノ事項及期間

五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間

六 休日及休憩ニ關スル事項

七 品性修養ニ關スル監督ノ方法

八 給與ノ方法

九 第三十條ノ規定ニ依リ設クル規程

十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危険ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

第五章 罰則

第三十三條 工業主ヲシテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル者又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 削除

第三十五條 削除

第三十六條 削除

附則

第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年內其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月內ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間內ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第二項ノ認可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ牴觸セサル限り本令施行ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則 (大正十五年勅令第五百十三號)

第一條 本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

第三條 本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主カ本令施行前ニ爲シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

前項ノ工業主ハ賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後二年以内其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク就學ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月以内ハ第二十二條、第二十五條及前條ノ規定ニ依ラサルコト

之得

附則第三條第二項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ引續キ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間内ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第二項ノ期間内ニ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

附則 (昭和四年勅令第三百二號)

本令ハ昭和四年七月二日ヨリ之ヲ施行ス

△工場法施行規則

大正五年八月三日
農商務省令第十九號

改正 大正一五年内務省令第一三號、昭和四年第二六號、五年第二四號

第二條 工場法施行令第二條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機トス

第三條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ

第四條 紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未滿ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルトキハ遲滞テケ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六條 工場法第九條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連桿、聯桿器、唧子桿、發電機ノ「コンミューターター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務
- 二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シヲ爲ス業務
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續
- 五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務
- 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危険豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
- 七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危険豫防裝置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條 工場法第十條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトリオン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務
- 二 「ガリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「アルコール」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務
- 三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務
- 四 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務

五 金屬、鑛物、土石、骨、角、襪、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務
 六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クローム」若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務
 七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六號及第七號ニ掲クル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

第八條 工業主ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核

三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 工業主ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス
 工業主ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メ

タル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第九條ノ二 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分以内ヲ限り其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ工業主ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第十條 地方長官ハ前二條ニ掲クル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ様式第一號ニ依ル

第十二條 工業主ハ就業規則ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周知セシムヘシ

工業主ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條ノ二 工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ率及計算方法ヲ明示スヘシ

第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條 職工就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク醫師ヲ

シテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十四條ノ二 工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第二號ノ賃金總額ニ包含セラレサルモノ左ノ如シ

一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與
 二 發明、善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當

第十五條 工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載

ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條

職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入又ハ解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十條

工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

- 一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ
- 二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ
- 三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條

工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十二條

工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ
- 二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ
- 三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條 削除

第二十四條

常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條

職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滞ナク様式第四號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ事故發生當時休業三日以内ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條

工場又ハ附屬建設物内ニ於テ左ニ掲グル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク様式第五號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 火災又ハ爆發
- 二 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂
- 三 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂
- 四 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損
- 五 工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壊
- 六 其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

第二十七條

工場法第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用ヒ織物又ハ撚絲ノ事業ヲ營ムモノニハ工場法第三條、第四條、第七條、第八條、第十四條及第十八條乃至第二十三條並本則第二條、第四條、第十一條、第十二條第二項、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ工場ハ工業主ハ十六歳以上ノ職工ニ付其ノ住所、氏名、生年月日ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ工場ニ備付タルコトヲ要ス本名簿ハ工業労働者最低年齢法第三條ニ依ル名簿ト合併スルコトヲ妨ケス

附則

第二十八條

本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條

本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條

工場法施行ノ際十歳以上十二歳未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則 (大正十五年内務省令第十三號)

本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年七月一日ヨリ施行)

本令(様式第二號ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ十五歳トス

附則 (昭和四年内務省令第十六號)

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條第一項ノ工場ノ工業主ハ本令施行後二年間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

附則 (昭和五年内務省令第二十四號)

本令ハ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(様式省略)

△労働者災害扶助法

昭和六年四月一日
法律第五十四號

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス

- 一 土石砂鑛ヲ採取スル事業ニシテ動力若ハ火藥類ヲ用ヒ若ハ地下ニ於テ作業ヲ爲スモノ又ハ常時十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ
- 二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壊ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ
 - (イ) 國、道府縣、市町村又ハ勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ直營工事
 - (ロ) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工事並ニ此等ノ

事業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ニ關スル注文ニ依ル工事

(ハ) 其ノ他ノ工事ニシテ勅令ノ定ムル規模ノモノ

三 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ一定ノ路線ニ依ル自動車ノ運輸事業

四 船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、岸壁、波止場、停車場若ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業又ハ工場、鑛山若ハ土石砂鑛ヲ採取スル場所ニ於ケル貨物積卸ノ事業ニシテ動力ニ依ル起重機、昇降機其ノ他ノ揚重機ヲ用フルモノ又ハ常時十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ

五 前各號ニ掲グルモノノ外危険ナル事業又ハ衛生上有害ノ虞アル事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
主務大臣ハ前項ノ規定ニ該當セザル土石砂鑛ヲ採取スル事業及岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業ニ付地域ヲ限り本法ヲ適用スルコトヲ得

第二條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働者ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スベシ

第三條 前條ノ事業主トハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ全部又ハ一部ガ數次ノ請負ニ依リ爲サル場合ニ於テハ元請負人ヲ其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス

前項但書ノ場合ニ於テ元請負人ガ書面ニ依ル契約ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシメタルトキハ其ノ下請負人モ亦其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス此ノ場合ニ於テハ二以上ノ下請負人ヲシテ同一ノ工事ニ付重複シテ扶助ヲ引受ケシムルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ元請負人ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ニ對シ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ下請負人ガ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ専ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルモノナルトキハ其ノ注文者モ亦

其ノ事業ニ付事業主トス、船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ作業(動力ニ運搬スル揚重機ヲ用フルモノニ限ル)ニシテ
注文ニ依リ爲サルルモノ又ハ同項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事ニ付テハ其注文者(數次ノ注文ニ依ル場合ニ於ケル上級
注文者ヲ含ム)モ其注文ニ依ル作業又ハ工事ニ關シ亦同ジ

前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ニ對シ尙數次ノ注文ニ依ル場合ニ於テハ其
ノ下級注文者ニ對シテモ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得、前條第三項但書ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス
前條第三項ノ規定ハ前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條ノ二 事業主本法ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免
ル

事業主及労働者ノ出捐スル共済組合、勅令ノ定ムル所ニ依リ事業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セサシムル給付ヲ爲シタル
トキハ事業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第四條ノ三 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第四條ノ四 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第五條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル危害ノ防止又ハ衛生ニ關シ必要ナル事項ヲ事業主
又ハ労働者ニ命ズルコトヲ得

第六條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第七條 事業主扶助ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲サザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ダ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽
ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定

ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指
揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條 本法中事業主ニ關スル罰則ハ國、道府縣、市町村及勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ之ヲ適用セズ

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年三月三十日法律第十八號

労働者災害扶助法中左ノ通改正ス

第一條第一項第二號(ロ)ヲ左ノ如ク改ム

(ロ) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工事並ニ此等ノ事
業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ニ關スル注文ニ依ル工事

第四條 第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ専ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルモノナルトキハ其ノ注文者モ亦
其ノ事業ニ付事業主トス船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ作業(動力ニ依リ運轉スル揚重機ヲ用フルモノニ限ル)ニシ
テ注文ニ依リ爲サルモノ又ハ同項第二號

(ロ) ノ注文ニ依ル工事ニ付テハ其ノ注文者(數次ノ注文ニ依ル場合ニ於ケル上級注文者ヲ含ム)モ其ノ注文ニ依ル作業又
ハ工事ニ關シ亦同ジ

前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ニ對シ、尙數次ノ注文ニ依ル場合ニ於テハ
其ノ下級注文者ニ對シテモ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得前條第三項但書ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條ノ二 事業主本法ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

事業主及労働者ノ出捐スル共済組合勅令ノ定ムル所ニ依リ事業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第四條ノ三 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ権利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第四條ノ四 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ権利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

労働者災害扶助法ニ基キ扶助ヲ受クルノ権利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第四條ノ三ノ規定ヲ適用ス

△労働者災害扶助法施行令

昭和六年十一月二十七日
日勅令第二百七十六號

改正 昭和八年
第三一四號

第一條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號(イ)ノ公共團體ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、學區並ニ町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキモノ及其ノ組合
- 二 水利組合、水利組合聯合會及北海道土功組合
- 三 耕地整理組合及土地區劃整理組合並ニ其ノ聯合會

第二條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル規模ノモノトス但シ軒高九米未滿ニ

シテ且建築面積三百三十平方米未滿ノ木造家屋ノ建築工事ヲ除ク

- 一 使用労働者延人員千人以上ノモノ
 - 二 請負ニ依ルモノニシテ請負金額一萬圓以上ノモノ
 - 三 火藥類、動力(一馬力以下ノ電動力ヲ除ク)ニ依リ運轉スル機械又ハ運搬ノ用ニ供スル軌道ヲ用フルモノニシテ使用労働者延人員三百人以上ノモノ
 - 四 地上十米以上又ハ地下三米以上ニ於テ作業ヲ爲スモノニシテ使用労働者延人員三百人以上ノモノ
- 工事着手前ニ於ケル豫定計畫ガ前項ノ規模ニ該當スルモノハ工事着手後之ニ該當セザルニ至リシ場合ト雖モ前項ノ規模ニ該當スルモノト看做ス

第二條ノ二 労働者災害扶助法第一條第五號ノ事業ハ工場以外ニ於テ行フ船舶(木造船船ヲ除ク)ノ解體ノ事業トス

第三條 事業主ハ労働者ガ業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ因リ死亡シタルトキハ本令ニ依リ扶助ヲ爲スベシ但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ事業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ疾病トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

- 一 負傷ニ因リ發シタル疾病
- 二 異物ニ因ル眼疾患、重量物體ノ取扱ニ因ル腱鞘炎其ノ他災害ニ因ル疾病
- 三 毒性、劇性又ハ刺激性料品ニ因ル中毒症又ハ皮膚若ハ粘膜ノ障碍
- 四 氣壓ノ急激ナル變化ニ因ル疾病
- 五 有害ナル光線ニ因ル眼疾患
- 六 其ノ他内務大臣ノ指定スル疾病

第一項ノ扶助義務ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外労働者ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ
工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ニ付テハ本令ニ依ル扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第四條 労働者負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ事業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スベシ

第五條 労働者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザルトキハ事業主ハ労働者ノ療養中一日ニ付標準賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スベシ但シ日日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セラル者ニシテ繼續使用セラルルコト十日未滿ノ者ニ付テハ事故發生ノ日ヨリ起算シ三日間ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ
労働者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ標準賃金ノ百分ノ二十トス

第六條 労働者ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ事業主ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ
左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ

- 一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級
 - 二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級
 - 三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級
- 別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存ル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ
既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該

當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第七條 労働者重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且事業主其ノ事實ニ付地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下ニ同ジ)ノ認定ヲ受ケタルトキハ休業扶助料及障害扶助料ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ

第八條 労働者死亡シタルトキハ事業主ハ遺族又ハ労働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタ者ニ標準賃金三百六十日分ノ遺族扶助料ヲ支給スベシ

第九條 労働者死亡シタルトキハ事業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ労働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタルモノニシテ葬祭ヲ行フ者ニ標準賃金三十日分(其ノ金額二十圓ニ滿チザルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スベシ

第十條 第四條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スベシ但シ本人ヨリ申出アリタルトキハ毎月二回以上之ヲ支給スベシ
障害扶助料ハ労働者ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク之ヲ支給スベシ但シ事業主ガ從來ノ賃金ヲ支給シテ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得
遺族扶助料及葬祭料ハ労働者ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給ス
事業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

労働者災害扶助責任保険法ニ依リ保険セラルル場合ニ於テハ第二項但書及前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十一條 第四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保険法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル労働者療養開始後一年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セザルトキハ事業主ハ標準賃金五百四十日分(第七條ノ場合ニ於テハ二百七十日分)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後前七條ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

第十二條 別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ヲ受クル労働者扶助ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル場合

ニ於テハ事業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スベシ

第十三條 事業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ事業主及労働者ノ出捐スル共済組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條 労働者災害扶助責任保険法第四條第二項ノ規定ニ依リ政府ガ扶助ヲ受クベキ者ニ保険金ヲ支拂ヒタルトキハ事業主ハ其ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第十五條 標準賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 労働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ニ使用セラルル者ニ付テハ一日ニ付十六歳未満ノ者ハ四十錢、十六歳以上ノ女子ハ六十錢、其ノ他ノ者ハ一圓
- 二 労働者災害扶助法第一條第一項第四號ノ事業ニ使用セラルル者ニ付テハ事故發生前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以前)一月間當該事業ニ繼續使用セラレタル同種労働者ノ賃金總額ヲ其ノ労働者ノ數ニ其ノ期間ノ日數ヲ乘ジタル數(業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シ賃金ヲ受ケザル日數ヲ控除ス)ヲ以テ除シタル金額
- 三 前二號以外ノ事業ニ日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セラルル者ニ付テハ事故發生ノ日ニ於テ當該事業ニ使用セラレタル同種労働者ノ平均賃金ノ三分ノ二
- 四 前三號ニ該當セザル者ニ付テハ事故發生前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以前)三月間(雇入後三月ニ滿チザルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ズ
- 五 健康保険法ノ被保險者ニ付テハ前四號ノ規定ニ拘ラズ事故發生當時其ノ者ニ付定メラレタル標準報酬日額
- 六 前各號ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト能ハザル者ニ付テハ地方長官ノ定ムル金額

内務大臣ハ業務ノ種類又ハ地域ヲ限リ前項第一號ノ金額ヲ増加又ハ減少スルコトヲ得

第一項第四號ニ規定スル期間中ニ業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間中ニ於ケル賃金ハ第一項第四號ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

第一項第四號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル手當ヲ包含セズ

第十六條 前條ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト不適當ナル場合ニ於テハ事業主ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ別段ノ標準賃金ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 工場法施行令第十條乃至第十二條、第十三條ノ二、第十五條及第十八條ノ規定ハ本令ノ扶助ニ付之ヲ準用ス

第十八條 國ノ直營スル事業ニ於ケル労働者ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

第十九條 労働者災害扶助法第十一條ノ公共團體ハ道府縣又ハ市町村ニ準ズベキモノトス

第二十條 本令中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

附則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

身體障害等級障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ヲ失明シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神又ハ胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 四 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	標準賃金五百四十分

第二級	一	兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減ジタルモノ	標準賃金四百八十分
	二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	
	三	兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	四	兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	
第三級	一	兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	標準賃金四百二十日分
	二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇四以下ニ減ジタルモノ	
	三	咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	
	四	十指ヲ失ヒタルモノ	
第四級	一	兩眼ノ視力〇・〇四以下ニ減ジタルモノ	標準賃金三百六十日分
	二	一眼失明シ他ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	
	三	兩耳ヲ全ク聾シタルモノ	
	四	精神ニ障害ヲ殘ヌモノ	
	五	胸腹部臟器ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	

第五級	一	兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	標準賃金三百日分
	二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	
	三	兩耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ	
	四	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ	
	五	一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ	
	六	十趾ヲ失ヒタルモノ	
第六級	一	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	標準賃金二百四十日分
	二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・二以下ニ減ジタルモノ	
	三	兩耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	
	四	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘ヌモノ	
	五	一手ノ五指ヲ失ヒタルモノ	
第七級	一	兩眼ノ視力〇・二以下ニ減ジタルモノ	標準賃金二百十日分
	二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・四以下ニ減ジタルモノ	

第八級	三	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ残スモノ	標準賃金二百十日分
	四	一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ	
	五	一手ノ五指ノ用ヲ廢シタルモノ	
	六	十趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第八級	一	兩眼ノ視力〇・四以下ニ減ジタルモノ	標準賃金百八十日分
	二	一眼ヲ失明シ又ハ視力〇・〇一以下ニ減ジタルモノ	
	三	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	
	四	神経系統ニ著シキ機能障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	
	五	一上肢又ハ一下肢ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ	
	六	一手ノ拇指ヲ併セ二指又ハ拇指以外ノ四指ヲ失ヒタルモノ	
	七	一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指ノ用ヲ廢シタルモノ	
	八	一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ	
	九	女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘スモノ	
	十	兩側ノ睪丸ヲ失ヒタルモノ	
第九級	一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	標準賃金百五十日分
	二	一眼ノ視力〇・〇四以下ニ減ジタルモノ	

第十級	三	兩眼ニ半盲症又ハ視野狹窄ヲ殘スモノ	
	四	一耳ヲ聾シタルモノ	
	五	→手ノ拇指又ハ他ノ三指ヲ失ヒタルモノ	
	六	一手ノ拇指ヲ併セ二指又ハ拇指以外ノ四指ノ用ヲ廢シタルモノ	
	七	一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ヲ失ヒタルモノ	
	八	一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十級	一	一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	標準賃金百二十日分
	二	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	
	三	鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
	四	齒ヲ缺損シ義齒ヲ補綴スルコト能ハズ言語又ハ咀嚼ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
	五	一手ノ示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ	
	六	一手ノ拇指又ハ他ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ	
	七	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ	
	八	一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ	

第十一級	一	一眼ノ視力〇・二以下ニ減ジタルモノ	標準賃金九十日分
	二	兩眼ノ眼球又ハ眼瞼ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	

三	一耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	標準賃金六十日分
四	脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ	
五	一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ	
八	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十二級一	一眼ノ視力〇・四以下ニ減ジタルモノ	
二	一眼ノ眼球又ハ眼瞼ニ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	
三	一眼ノ眼瞼ヲ缺損シタルモノ	
四	一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ	
五	一上肢又ハ一下肢ノ關節ニ機能障害ヲ殘スト雖モ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ	
六	一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ	
七	一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	
八	一足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ヲ失ヒ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ	
九	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
十	局部治癒シタルモ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ	

標準賃金四十日分

第十三級一	一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	標準賃金二十日分
二	一眼ニ半盲症ヲ殘シ又ハ視野狹窄又ハ變狀ヲ殘スモノ	
三	兩眼ニ睫毛禿ヲ殘スモノ	
四	胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖モ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ	
五	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ	
八	一足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
九	男子ノ外貌ニ著シキ醜痕ヲ殘スモノ	
第十四級一	上肢又ハ下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
二	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ	
三	一手ノ小指以外ノ指ノ骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
四	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
五	局部ノ疼痛其ノ他ノ神經症狀ヲ殘スモノ	

標準賃金二十日分

備考

一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依リ、屈折異常アルモノニ付テハ矯正視力ニ依ル
 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指指ハ指關節、其ノ他ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
 三 指又ハ趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ屈伸不能ヲ來シタルモノヲ謂フ
 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

△労働者災害扶助法施行規則

昭和六年十一月二十八日
内務省令第三十二號

改正 昭和八年第二六〇
號、一〇年第四八號

第一條 労働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業主ハ扶助ニ關シ一切ノ權限ヲ有スル扶助代理人ヲ選任スルコトヲ得
事業主ガ事業ノ行ハルル場所ニ居住セザルトキ又ハ事業主法人ナル場合ニ於テ主タル事務所ガ事業ノ行ハルル場所ニ在
ラザルトキハ扶助代理人ヲ選任スベシ

前二項ノ規定ニ依リ扶助代理人ヲ選任シタルトキハ事業主ハ遲滯ナク地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同
ジ）ニ届出ズベシ

地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ扶助代理人ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

扶助代理人ハ本則ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

第二條 事業主ハ事業ノ行ハルル場所ニ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備置クベシ但シ其ノ附近ニ適當ナル施
設ノ利用シ得ベキモノアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 事業主ハ其ノ住所氏名、扶助ニ關スル事項ノ要旨及扶助代理人アルトキハ其ノ住所氏名ヲ事業ノ行ハルル場所ノ
見易キ箇所ニ揭示スベシ

前項ノ揭示ニハ労働者災害扶助法第三條第二項又ハ同法第四條第一項ノ事業主アルトキハ其ノ住所氏名ヲモ記載スベシ

第四條 事業主ハ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル主タル事務所ニ労働者ノ扶助ニ關スル書類ヲ備置クベシ

前項ノ扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第五條 労働者業務上ノ負傷又ハ労働者災害扶助法施行令第三條第二項ノ疾病ニ因リ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スベキ
トキ又ハ死亡シタルトキハ事業主ハ遲滯ナク様式第一號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第六條 事業主扶助ヲ爲シタルトキハ様式第二號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第七條 事業主ハ毎年十月末日迄ニ様式第三號ニ依リ十月一日現在ニ於ケル労働者數ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第八條 第一條乃至第三條、第五條及第七條ノ規定ニ於テ事業主トアルハ労働者災害扶助法第三條第二項ノ場合ニハ下請
負人タル事業主、同法第四條第一項ノ場合ニハ労働者ヲ使用スル事業主トス

第九條 事業ノ行ハルル場所ガ二以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ本則ニ依ル届出ハ其ノ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル主タ
ル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スベシ

第十條 第一條第二項若ハ第三項又ハ第二條乃至第七條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル命令ニ従ハ
ザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規
定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ
指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十三條 本則中扶助代理人ニ關スル規定及事業主ニ適用スベキ罰則ハ道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用
セズ

第十四條 本則中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

附 則

本則ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（様式省略）

△労働者災害扶助責任保険法

昭和六年四月一日
法律第五十五號

第一條 政府ハ本法ニ依リ労働者災害扶助責任保険ヲ管掌ス

第二條 労働者災害扶助責任保険ニ於テハ労働者災害扶助法、工場法又ハ鑛業法ニ基ク扶助責任ヲ保險スルモノトス
扶助責任ノ保險ヲ付スベキ事業ノ種類、保險スベキ扶助責任ノ範圍及保險料率、保險料納付期日其ノ他保險料ニ關スル事項ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ事業主及勅令ノ定ムル事業主ハ政府ト保險契約ヲ締結スベシ
但シ同法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元請負人ニ於テ保險契約ヲ締結スベシ

第四條 保險契約者ヲ以テ保險金受取人トス但シ前條但書ノ規定ニ依リ元請負人ガ保險契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ヲ以テ保險金受取人トス

政府ハ前項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第五條 保險契約者ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ依リ保險料算定ノ基礎タル重要ナル事實ヲ告知セズ又ハ其ノ事實ニ付不實ノ告知ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第六條 保險契約者保險料ノ拂込ニ付遲滞シタルトキハ其ノ遲滞期間ニ於テ生ジタル事故ニ對スル保險金ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第七條 保險契約者又ハ保險金受取人ガ故意若ハ重大ナル過失ニ依リ又ハ労働者災害扶助法、工場法若ハ鑛業法ニ基ク危害豫防若ハ衛生ニ關スル命令ニ違反シタルニ依リ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第八條 保險金支拂ノ義務及保險料返還ノ義務ハ二年、保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第九條 保險契約者又ハ保險金受取人ガ労働者災害扶助責任保険ニ關スル事項ニ付政府ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルニハ労働者災害扶助責任保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第十條 労働者災害扶助責任保險審査會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本法ニ依ル保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第十二條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ本法ニ依リ扶助責任ノ保險ヲ付シ又ハ付スベキ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十三條 第三條ノ事業主保險契約ヲ締結セザルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ニシテ本法施行前ニ著手(請負ニ依ルモノニ付テハ請負契約ノ締結)セラレタルモノニ付テハ第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

△労働者災害扶助責任保險法施行令

昭和六年十一月二十七日
勅令第二百七十七號

改正 昭和一〇年
第二十七號

第一條 労働者災害扶助責任保険ニ付スル事業ハ労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事トス

前項ノ工事ノ事業主(労働者災害扶助法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元請負人タル事業主)ハ工事ノ開始前十四日迄ニ保
險契約ノ申込ヲ爲スベシ但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ其ノ後ニ於テ保險契約ノ申込ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第二條 保險スベキ扶助責任ノ範圍左ノ如シ

- 一 療養費中十圓ヲ超ユル部分
- 二 休業扶助料中八日以後ノ休業ニ付支給スル部分
- 三 障害扶助料
- 四 遺族扶助料
- 五 打切扶助料

第三條 前條第一號ノ療養費ノ範圍ハ左ニ掲グル療養ノ費用トス

- 一 診察(扶助請求ニ必要ナル診断書意見書等ノ作成ヲ含ム)
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
- 三 處置及手術(齒科補綴ヲ含ム)
- 四 物理的治療
- 五 病院收容
- 六 看護
- 七 移送

前項ノ療養ノ費用ハ政府ノ定ムル所ニ依リ之ヲ算定ス

第一項第一號乃至第五號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ就キ
受クルモノニ限ル

第一項第四號乃至第七號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタルモノニ限ル

第四條 第二條第五號ノ打切扶助料ハ政府ノ承認ヲ受ケ又ハ其ノ指示ニ依リ支給スルモノニ限ル

保險金受取人前項ノ指示ニ從ハザルトキハ政府ハ當該負傷又ハ疾病ニ付以後ノ療養費及休業扶助料ニ對スル保險金ノ支
拂ヲ爲サズ

第五條 保險期間ハ工事ノ開始ヨリ終了迄トス但シ工事開始後保險料(第七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第一回保險料)ノ

拂込ヲ爲シタルモノニ付テハ拂込ノ翌日ヨリ工事終了迄トス

第六條 保險料ハ左ノ金額トス

- 一 請負金額ノ定アル工事(工作物ノ破壊工事ヲ除ク)ニ付テハ請負金額ニ保險料率ヲ乗ジタル額
- 二 前號以外ノ工事ニ付テハ労働者ノ賃金總額ニ保險料率ヲ乗ジタル額
注文者ガ工事用物ヲ支給スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ算定シタル價格ヲ其ノ工事ノ請負金額ニ加算シタルモノヲ以
テ前項第一號ノ保險料算定ノ基礎タル請負金額トス
- 一 注文者ガ購買シタル物ニ付テハ其ノ購買價格
- 二 注文者ガ其ノ業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ付テハ其ノ支給ノ時ニ最モ近接シテ注文者ガ販賣シタル通常ノ價格
- 三 前二號ノ規定ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格

政府ハ第一項第一號ノ規定ニ依ルヲ著シク不適當ナリト認ムルトキハ同項第二號ノ規定ニ依リ保險料ヲ定ムルコトヲ得
政府ハ工事開始後保險料(第七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第一回保險料)ノ拂込ヲ爲シタルモノニ付工事開始後ノ拂込
ガ已ムコトヲ得ザル事由ニ因ルモノト認メタルトキハ工事開始ノ日ヨリ保險料拂込ノ日迄ニ於ケル工事進捗ノ狀況又ハ
使用労働者延人員數ニ應ジテ保險料ヲ減額スルコトヲ得

第七條 保險契約ノ申込ヲ爲シタル者ハ已ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外工事開始前ニ保險料ヲ政府ニ拂込ムベシ但シ工

事期間一年ヲ超ユルモノニ付テハ最初ノ一年分ノ保險料ヲ工事開始前ニ拂込ミ爾後各年(一年ニ滿チザルトキハ其ノ期間)分ノ保險料ヲ其ノ期間開始前ニ拂込ムコトヲ得

前項ノ保險料ハ前條第一項第一號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ保險契約申込ノ時ニ於テ定メラレタル請負金額(注文者ガ工費用物ヲ支給スル場合ニ於テハ前條第二項ニ規定スル價格ノ見積額ヲ加算ス)ニ、同項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額ニ保險料率ヲ乗ジタル金額トス第一項但書ノ一年分ノ保險料ハ保險料總額ヲ豫定工事期間ノ日數ヲ以テ除シタルモノニ三百六十五(閏年ノ二月末日ヲ含ム場合ニハ三百六十六)ヲ乗ジタル金額トス但シ政府ハ工事施行計畫ノ狀況ニ應ジ異ル方法ニ依リ一年分ノ保險料ヲ定ムルコトヲ得

政府ハ第二項ノ請負金額又ハ賃金總額ノ見込額ニ變更ヲ生ジタルトキ其ノ他必要アル場合ニ於テハ保險料ノ追加拂込ヲ命ズルコトヲ得

第八條 第六條第一項第二號及前條第二項第四項ノ賃金總額ハ労働者災害扶助法施行令第十五條及第十六條ノ規定ニ依リ定ムル標準賃金額ニ使用労働者延人員(工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク)ノ數ヲ乗ジタル金額トス前項ノ規定ノ適用ニ付テハ十六歳未滿ノ者ハ十六歳以上ノ者ト看做ス

第九條 保險料率ハ内務大臣之ヲ定ム

第十條 第七條ノ規定ニ依リテ拂込ミタル保險料ガ工事終了後第六條ノ規定ニ依リテ算定シタル保險料ニ比シ過不足アルトキハ政府ハ保險料ノ追加拂込ヲ命ジ又ハ之ヲ返還ス

第十一條 左ノ各號ノ條件ヲ具備スル場合ニ於テハ政府ハ第一號ノ剩餘額ノ範圍内ニ於テ且第二號ノ超過額ヲ限度トシテ第一號ノ工事ノ保險契約者ニ保險料ノ一部ヲ返還スルコトヲ得但シ労働者災害扶助責任保險法第五條乃至第七條ノ規定ニ該當スル保險契約者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 毎會計年度末現在ニ於テ前前年度中ニ作業ノ終了シタル工事ニ付其ノ保險料總額ノ八割ヨリ支拂保險金總額ヲ差引

キ剩餘ヲ生ズルコト

二 當該會計年度決算ニ於テ損失ヲ生ゼザルコト

三 當該會計年度決算ニ於ケル積立金ガ本保險創始以來ノ收入保險料總額ノ一割ヲ超ユルコト

前項ノ規定ニ依ル返還ハ各個ノ工事ニ付保險料ノ八割ヨリ支拂保險金額ヲ控除シタル殘額ニ比例シテ之ヲ爲ス

第一項ノ會計年度九月末現在ニ於テ尙繼續シテ療養ヲ受クル者アルトキハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ同年度九月末ニ於テ打切扶助料ヲ支給シタルモノト看做シ支拂保險金額ヲ計算ス

第十二條 保險金受取人ノ行方不明、資力薄弱其ノ他ノ事由ニ因リ扶助ヲ受クルコト困難ナリト認ムル場合ニ於テハ政府ハ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第十三條 労働者災害扶助責任保險法第五條ノ場合ニ於テハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ保險契約者告知セザリシ事實ヲ告知シ又ハ不實ノ告知ヲ訂正シタル場合ニ於テ其ノ後ニ生ジタル事故ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 保險契約者第七條第一項但書ノ規定ニ依ル第二回以後ノ保險料ノ拂込又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル保險料ノ追加拂込ヲ遲滞シタルトキハ政府ハ遲滞期間中ニ生ジタル事故ニ對スル保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ已ムコトヲ得ザル事由ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 保險契約者又ハ保險金受取人故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ

第十六條 政府ハ事業主ガ扶助ヲ爲ス資力ナシト認ムル場合ニ於テハ前三條ノ規定ニ拘ラズ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第十七條 労働者災害扶助責任保險ハ社會局長官ニ於テ之ヲ掌ル但シ第三條第三項第四項又ハ第四條第一項ノ承認又ハ指示ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ爲ス

附則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十年勅令第二十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年四月二十日迄ニ保險契約ノ申込ヲ爲シタル工事ノ保險料ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

△勞働者災害扶助責任保險法施行規則

昭和六年十一月二十八日
内務省令第三十三號

改正 昭和一〇年
第一六號

第一條 保險契約ノ申込ヲ爲サントスル者ハ保險契約申込書ニ左記事項ヲ具シ記名捺印ノ上社會局長官ニ提出スベシ但シ

保險契約ノ申込當時第二號ノ工事ノ主タル事務所ノ設ケナキトキハ之ヲ設ケタル後遲滯ナク届出ヅベシ

一 工事ノ場所、名稱及種類

二 工事ノ主タル事務所ノ所在地

三 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日

四 保險契約申込者ノ住所氏名

五 請負ニ依ル工事ニ在リテハ注文者ノ住所氏名

六 使用勞働者(工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク以下之ニ同ジ)男女別豫定延人員ノ概數

七 工事ノ豫定費用概算額(請負ニ依ル工事ニシテ請負金額ノ定マレルモノニ在リテハ請負金額)

八 注文者ヨリ工食用物ノ支給ヲ受クル場合ニハ其ノ種類別ノ數量及價格ノ見積額

九 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額

十 保險料率

十一 勞働者災害扶助責任保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ拂込ムベキ保險料(以下概算保險料ト稱ス)ノ總額及工事開始前ニ拂込ムベキ概算保險料

十二 工事設計ノ概要

前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク變更事項ヲ社會局長官ニ届出ヅベシ但シ勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第二項又ハ同令第七條第四項ノ規定ニ依リ政府ガ前項第十號及第十一號ノ事項ヲ變更シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ニ依リ社會局長官ニ保險契約申込書ヲ提出シタルトキハ其ノ寫本ヲ添ヘ其ノ旨地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ニ届出ヅベシ

第二條 社會局長官保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ保險契約者ニ交付ス

保險證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ社會局長官記名捺印ス

一 保險證書作成ノ年月日及記號番號

二 保險契約者ノ住所氏名

三 工事ノ場所、名稱及種類

四 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日

五 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第一號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ請負金額、同項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額

六 保險料率

七 概算保險料額

八 拂込ミタル概算保険料ノ額及拂込年月日、概算保険料未拂込ノ部分アルトキハ其ノ額及拂込時期

第三條 勞働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ規定ニ依リ下請負人ガ保險金受取人タル場合ニ於テハ保險契約者ハ其ノ

下請負人ガ扶助ヲ引受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ左記事項ヲ社會局長官ニ届出ヅベシ

一 保險證書ノ作成年月日及記號番號(保險證書ノ受領前ニ在リテハ工事ノ場所及名稱)

二 保險契約者ノ住所氏名

三 保險金受取人ノ住所氏名及其ノ工事ニ於ケル主タル事務所ノ所在地

四 扶助ヲ引受ケシメタル工事ノ種類、範圍及其ノ使用勞働者男女別豫定延人員ノ概數

前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更事項ヲ社會局長官ニ届出ヅベシ

第四條 社會局長官ハ前條第一項ノ届出アリタルトキハ保險金受取人證書ヲ作成シ保險金受取人ニ交付ス

保險金受取人證書ニハ前條第一項各號ノ事項並ニ保險金受取人證書作成ノ年月日及記號番號ヲ記載シ社會局長官記名捺

印ス

第五條 保險證書又ハ保險金受取人證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ遲滞ナク保險

證書又ハ保險金受取人證書ヲ添ヘ其ノ訂正ノ申請ヲ爲スベシ

勞働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ保險金受取人タル下請負人ガ保險金受取人タラザルニ至リタルトキハ保險契約

者ハ其ノ旨社會局長官ニ届出ヅベシ

第六條 保險證書又ハ保險金受取人證書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ再交付ヲ申請ス

ルコトヲ得

第七條 保險契約者ハ日日ノ使用勞働者男女別人員數ヲ記錄シ毎月十日迄ニ前月分ヲ地方長官ニ届出ヅベシ但シ請負金額

ニ依リ保險料ヲ定メタル場合ニ於テハ日日ノ使用勞働者男女別人員數ヲ記錄スルヲ以テ足ル

第八條 保險契約者ハ工事終了後遲滞ナク左記事項ヲ社會局長官ニ届出ヅベシ

一 保險證書作成ノ年月日及記號番號

二 保險契約者ノ住所氏名

三 工事ノ場所、名稱及種類

四 工事ノ開始及終了年月日

五 使用勞働者男女別延人員

六 請負金額ノ定アル工事ニ付テハ請負金額

七 注文者ヨリ支給ヲ受ケタル工費用物ノ有無

前項ノ届出ニ際シテハ第二十三條第三項ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル注文者ノ申告書ヲ併セテ提出スベシ

第九條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ地方長

官ニ申請スベシ

一 保險證書ノ作成年月日及記號番號(保險金受取人保險契約者ナラザルトキハ保險金受取人證書ノ作成年月日及記號

番號)但シ保險證書又ハ保險金受取人證書受領前ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及

名稱

二 勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ勞働者死傷報告届出ノ年月日

三 扶助ヲ受クル者ノ住所氏名及生年月日

四 療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名、職業及學位又ハ稱號

五 傷病ノ部位及經過

六 療養ノ内容

七 療養ニ要スル費用ノ見込額

八 政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ就キ療養ヲ受クルコト能ハザル事由

第十條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第四項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ前條第一號乃至第三號及第五號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

前項ノ申請ニハ醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ヲ添付スベシ

第十一條 前二條ノ規定ハ勞働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ政府ヨリ保險金ノ支拂ヲ受クル者ガ勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス但シ申請書ニ保險證書、保險金受取人證書又ハ勞働者死傷報告ニ關スル事項ヲ記載スルコト能ハザルトキハ保險金受取人ノ住所氏名、工事ノ場所及名稱、事故發生ノ年月日並ニ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ

第十二條 勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ノ申請ハ療養ヲ擔當スル者ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條、第十條及前條但書ノ規定ヲ準用ス

第十二條ノ二 保險金受取人療養擔當者ヲ變更セントスルトキハ左記事項ヲ具シ豫メ地方長官ニ届出ヅベシ、但シ新ニ療養ヲ擔當セントスル者現ニ療養ヲ擔當スル者ト同一道府縣内ニ居住スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 保險證書ノ作成年月日及記號番號、保險金受取人保險契約者ナラザルトキハ保險金受取人證書ノ作成年月日及記號番號(但シ保險證書又ハ保險金受取人證書受領前ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及名稱)

二 勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ勞働者死傷報告届出ノ年月日

三 扶助ヲ受クル者ノ住所氏名及生年月日

四 現ニ療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名

五 新ニ療養ヲ擔當セントスル者ノ住所氏名

第十三條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第四條第一項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ地方

長官ニ申請スベシ

一 第九條第一號乃至第三號ニ掲グル事項

二 扶助ニ關スル從來ノ經過及扶助ヲ打切ラントスル事由

前項ノ申請ニハ扶助ヲ受クル者ノ現在ノ症狀及將來ノ療養見込日數ニ關スル醫師ノ意見書ヲ添付スベシ

第十四條 保險金受取人保險金ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ勞働者毎ニ左記事項ヲ記載シタル請求書ヲ社會局長官ニ提出スベシ

一 第九條第一號第二號及第五號ニ掲グル事項

二 傷病者又ハ死亡者ノ住所氏名及生年月日

三 勞働者治癒シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ其ノ年月日、未治癒ノトキハ其ノ旨

四 扶助種類別保險金額、療養ノ扶助ニ付テハ費用ノ詳細、休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ日數及年月日、障害扶助料ニ付テハ障害ノ概要及該當等級、遺族扶助料ニ付テハ之ヲ受クル者ノ住所氏名、生年月日及本人トノ續柄

前項ノ請求書ニハ左記書類ヲ添付スベシ

一 療養費ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ受取書但シ療養ヲ擔當スル者保險金受取人ノ委任ヲ受ケテ保險金ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ之ヲ添付スルコトヲ要セズ

二 休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付テハ扶助料ヲ受ケタル者ノ受取書其ノ他扶助料ヲ支給シタルコトヲ證スル書類但シ扶助ヲ受クベキ者保險金受取人ノ委任ヲ受ケ保險金ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ之ヲ添付スルコ

- 三 休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシコトニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書
- 四 病院收容ノ場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者アルトキハ之ヲ證スル書類
- 五 障害扶助料ニ付テハ當該等級ニ相當スルコトヲ證スル醫師又ハ齒科醫師ノ診断書
- 六 遺族扶助料ニ付テハ醫師ノ死亡診断書、警察官署ノ檢死證又ハ市町村長ノ埋火葬認許證寫其ノ他死亡ヲ證スル書類又死亡者ノ戸籍謄本其ノ他遺族扶助料ヲ受クベキ者ト本人トノ續柄ヲ證スル書類

第十五條 前條ノ保險金支拂ノ請求書ハ毎月二十日迄ニ前月分ニ付之ヲ提出スベシ

第十六條 扶助ヲ受クベキ者勞働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ保險金ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ記載シタル請求書ヲ社會局長官ニ提出スベシ

- 一 第十四條第一項各號ノ事項
 - 二 事業主ヨリ扶助ヲ受クルコト困難ナル事由
 - 三 既ニ受ケタル扶助ノ内容(療養ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名及療養費、休業扶助料ニ付テハ休業年月日及期間並ニ金額、障害扶助料ニ付テハ其ノ該當等級及金額)
- 前項ノ請求書ニ付テハ第十一條但書及第十四條第二項(第二號ヲ除ク)ノ規定ヲ準用ス
- 社會局長官第一項ノ請求書ヲ受ケ扶助ヲ受クベキ者ニ直接保險金ヲ支拂ヒタルトキハ保險金受取人ニ其ノ旨通知ス
- 第十七條 第九條乃至前條ノ適用ニ付勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ規定ニ依ル勞働者死傷報告ノ届出ヲ爲スコトヲ要セザル場合ニ於テハ勞働者死傷報告届出ノ年月日ニ代ヘ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ
- 第十八條 保險契約者及保險金受取人ハ工事ノ主タル事務所(工事終了後ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所)ニ保險ニ關スル書類ヲ備置クベシ

保險ニ關スル書類ハ扶助ノ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第十九條 本則ニ依リ社會局長官ニ提出スベキ書類ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(保險金ノ請求ニ付テハ扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ但シ第一條第一項ノ保險契約申込書ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 勞働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ノ注文者請負者ニ工使用物ヲ支給シタルトキハ工事終了後遲滞ナク其支給シタル物ノ種類別數量及左ノ各號ニ依リ算定シタル價格ヲ社會局長官ニ申告スベシ

- 一 注文者ガ購買シタル物ニ付テハ其購買價格
- 二 注文者ガ其業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ就テハ其支給ノ時ニ最モ近接シテ注文者ガ販賣シタル通常ノ價格
- 三 前二號ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格

地方長官ハ前項ノ注文者ニ對シ請負金額其他必要ト認ムル事項ノ申告ヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ申告書ハ保險契約者ニ委託シテ之ヲ提出スベシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第一條第一項但書、同條第二項、同條第三項、第七條、第八條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 前條ノ申告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者
- 三 本則ニ依リ社會局長官又ハ地方長官ニ提出スル書類ニ虚偽ノ事實ヲ記載シタル者

第二十二條 勞働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ノ注文者、保險契約者、保險金受取人又ハ扶助ヲ受クベキ者未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 勞働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ノ注文者、保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ代理人、戶

主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十四條 本則ノ罰則ハ道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ公共團體ニ之ヲ適用セズ

附則

本則ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十年内務省令第十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年四月二十日迄ニ保險契約ノ申込ヲ爲シタル工事ニ關スル注文者ノ支給物ニ關スル届出ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ

△傭人扶助令

大正七年十一月二十一日
勅令第三百八十二號

改正 大正一五年第二三九號、昭和三年第一二八號、四年第二三七號

第一條 政府ハ其ノ雇傭スル職工、鑛夫其ノ他ノ傭人業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス

扶助金ノ支給ヲ受クヘキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ

第二條 扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス
- 二 休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサル者ニ之ヲ支給ス

三 障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

四 打切扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ治癒セサル者ニ之ヲ支給ス

五 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族又ハ其ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

六 葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ傭人死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セズ

傭人重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第三條 障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第四條 療治料又ハ休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

障害扶助料ハ傭人ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ傭人ノ死亡後遲滞ナク之ヲ拂渡スモノトス

第五條 負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條 遺族扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條ノ二 傭人健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間療治料ヲ支給セス健康保險法ニ依ル傷病手当金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

傭人ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セス但シ葬

祭料ノ額カ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

健康保險法第六十二條第一項(第二號ヲ除ク)第二項、第六十四條又ハ第六十五條第一項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサ

ル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料、休業扶助料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セス

第七條 負傷又ハ疾病カ傭人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セス

第八條 解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテハ工場法施行令第十六條第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ主務官廳之ヲ定ム

第十條 政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救濟ヲ目的トスル組合ノ組合員タル現業傭人ニハ本令ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セス

組合員タル現業傭人組合ヨリ療治料、休業扶助料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受クヘキトキハ第六條ノ二及第八條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給付ヲ受クヘキトキハ本令ニ依ル打切扶助料ハ之ヲ支給セス

附則 本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際官役職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依ル扶助金ヲ支給ス

官役職工人夫扶助令ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正十五年勅令第二百三十九號)

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ官費治療ヲ受クル者又ハ從前ノ規定ニ依リ扶助金ヲ受クル者ニシテ本令施行ノ際引續キ官費治療又ハ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ハ本令施行後ハ本令ニ依ル本令施行前ニ官費治療又ハ扶助金ヲ受ケテ治療シタル

負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ニ付亦同シ

附則 (昭和三年勅令第二百二十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹レル傭人ニシテ本令施行ノ際仍治癒セサル者ニ對スル本令施行後ノ扶助ハ本令ニ依ル

本令施行前治癒シタル業務上ノ負傷又ハ疾病ガ本令施行前再發シ本令施行ノ際仍治癒セサルトキ又ハ本令施行後再發シタルトキハ再發ノ時迄引續キ雇傭スル傭人ニ限り本令ヲ適用ス

附則 (昭和四年勅令第二百三十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日以内ナルトキ

同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日ヲ超エタルトキ

終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者

終身勞務ニ服スルコト能ハサル者

從來ノ業務ニ服スルコト能ハサル者健康舊ニ復スルコト能ハサル者又ハ女子ニシテ其外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者

身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ業務ニ服スルコトヲ得ル者

賃金三百六十日分以上五百日分以下

賃金百八十日分以上三百日分以下

賃金四十日分以上百五十日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

賃金五百四十日分以上七百日分以下

種別	療治料	休業扶助料	障害扶助料	打切扶助料	金額	
					實	費
同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日以内ナルトキ					一日ニ付賃金日額百分ノ六十	
同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日ヲ超エタルトキ					一日ニ付賃金日額百分ノ四十	
終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者					賃金五百四十日分以上七百日分以下	
終身勞務ニ服スルコト能ハサル者					賃金三百六十日分以上五百日分以下	
從來ノ業務ニ服スルコト能ハサル者健康舊ニ復スルコト能ハサル者又ハ女子ニシテ其外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者					賃金百八十日分以上三百日分以下	
身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ業務ニ服スルコトヲ得ル者					賃金四十日分以上百五十日分以下	
					賃金五百四十日分以上七百日分以下	

(別表)

遺族扶助料
葬祭料

賃金三百六十日分以上六百日分以下
賃金三十日分(但シ三十圓ニ滿タサルトキハ
三十圓)以上四十日分以下

△漁業法

明治四十三年四月二十一日
法律第五八號

第四十條 漁業ニ従事スル者ノ雇傭竝雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

△鑛業法拔萃

明治三十八年三月八日
法律第四十五號

改正 明治三十八年第四五號、四〇年第四一號、四三年第一〇號、
四四年第九號、大正一三年第二二號、昭和二年第三六號

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ従事スル勞役者ヲ謂フ

第五章 鑛 夫

第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間竝婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺

族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第八章 罰 則

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ

從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第一百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

昭和十年三月三十日法律第二十四號

鑛業法中左ノ通改正ス

第八十條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第八十條ノ二 鑛業權者前條ノ規定ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル共濟組合命令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權者ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第八十條ノ三 第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第八十條ノ四 第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鑛業法第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クル權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第八十條ノ三ノ規定ヲ適用ス

△鑛夫勞役扶助規則

大正五年八月三日
農商務省令第二十一號

改正 大正一五年內務省令第一七號、昭和二年
第三〇號、三年第三〇號、四年第二五號

第一條 鑛業法第七十五條ノ規定ニ依ル雇傭勞役規則ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ鑛業著手前鑛山監督局長ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ

- 一 業務ノ種類
- 二 雇入ノ手續
- 三 解雇ノ事由及手續
- 四 解雇ノ場合ニ於ケル歸郷旅費支給ニ關スル事項
- 五 賃金ノ支拂方法及支拂期日
- 六 石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項
- 七 鑛夫ノ貯金其ノ他ノ積立金ヲ管理スルトキハ其ノ方法、拂戻ノ事由及手續
- 八 鑛夫ノ負擔ニ屬スル作業用品目
- 九 業務別就業時間及就業時ノ轉換方法

十 休日

- 十一 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スルトキハ就學ニ關シ必要ナル事項
- 十二 賞與及制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

雇傭勞役規則ヲ變更セムトスルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 採掘權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカラサル事由ニ依リ臨時必要アル場合ニ於テハ就業時間、就業時ノ轉換方法及休日ニ關スル事項ニ付雇傭勞役規則ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三條 鑛業權者鑛夫ヲ雇入レタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 氏名

二 生年月日

三 本籍

四 履歷ノ要領

五 鑛夫十六歳未滿ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨

六 業務ノ種類

七 雇入ノ年月日

八 雇傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間

前項ノ規定ニ依リ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ

第四條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記入シ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ五箇

一年以上之ヲ保存スヘシ

一 解雇又ハ死亡ノ年月日

二 解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因

第五條 (昭和五年九月一日ヨリ施行)

鑛業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス
鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ従事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六條

鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

第六條ノ二

鑛業權者ハ選炭作業ニ従事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得
テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條

鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(本條ハ昭和五年九月一日ヨリ次ノ如ク改ム)

第七條

(昭和五年九月一日ヨリ施行但シ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ昭和八年八月三十一日迄適用セス)

鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前

五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラス午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ従事セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ第一項ノ規

定ニ拘ラス午後十二時迄就業セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ午後十一時後ニ於テ就業セシムルトキハ午後十二時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ鑛夫ヲ三組以上ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ従事セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第一項ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

第七條ノ二 (昭和五年九月一日ヨリ施行)

坑内ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入りタル時ヨリ坑口ヲ出テタル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑及出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルキハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑内ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條

鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クヘシ

第十條

鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條

鑛業權者ハ變災又ハ變災ノ虞アル爲急迫ノ必要アル場合ニ於テハ第六條、第六條ノ二第一項及第七條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

鑛業權者ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第六條、第六條

ノ二第一項及第七條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

(本條ハ昭和五年九月一日ヨリ左ノ如ク改ム)

第十一條 (昭和五年九月一日ヨリ施行但、昭和八年八月三十一日迄適用セス) 鑛業權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山

監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第五條第一項、第六條及第六條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ第七條第一項乃至第三項及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必要ニ應スル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

前項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ様式第四號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第十一條ノ二 (昭和五年九月一日ヨリ施行但、昭和八年八月三十一日迄適用セス) 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ主トシテ薄層ヲ採掘スル石炭坑ニ就業スル鑛夫ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十二條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、検査又ハ修理

二 機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危険ナル方法ニ依ル取附又ハ取外

三 汽罐ノ焚火、給水弁若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コトトレル」集塵裝置ニ屬スル整流機ノ取扱

五 高壓電線ノ接續

六 機械力ニ依リ運轉スル捲揚機ノ取扱

七 運轉中ノ車輛ノ連結又ハ分離

八 鑛物ノ掘採及岩石ノ掘鑿

九 爆發藥ノ裝填又ハ點火

十 支柱ノ取附又ハ取外

十一 製鍊作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱

十二 有害ナル煙塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除

十三 砒素、水銀、鉛若ハ亞鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸汽又ハ瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

十四 電解精鍊ヲ爲ス場所ニ於ケル業務

十五 鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱

二 揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性料品ノ取扱

三 土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

第十四條 鑛業權者ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核

三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五 膿漏性結膜炎、「トラホーム」(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病
鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、髓鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ病疾ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ
虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシム
ルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 鑛業權者ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス
鑛業權者ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求
メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限り其ノ生兒ヲ哺育スヘキ
時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス
鑛業權者坑内作業ニ従事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ
規定ニ拘ラス坑内作業ニ従事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條 鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ
受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因付ニ損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第十八條 鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔ス
ヘシ

第十九條 鑛夫療養ノ爲勞後ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百
分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八日ヲ超エ

タルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第二十條 鑛夫ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ鑛業權者ハ左
ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

- 一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ 賃金五百四十分以上
- 二 終身勞役ニ従事スルコト能ハサルモノ 賃金三百六十分以上
- 三 從來ノ勞役ニ従事スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子
ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ 賃金百八十分以上
- 四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞役ニ従事スルコトヲ得ルモノ 賃金四十分以上

第二十條ノ二 鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場
合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六
十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第二十二條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ
シテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チサルトキハ三十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第二十三條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬ト
シ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十四條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一 鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス

二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十五條 第二十三條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一 鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主

二 鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在ル者

三 鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者

鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依ル指定アリタルトキハ鑛業權者遲滯ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スヘシ

第二十六條 第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二 鑛夫健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條 第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ鑛業權者ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第二十八條 鑛業權者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

一 鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一箇年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ鑛夫ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第二十九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

二 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三日間(雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二 産前又ハ産後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ定ム

第三十條 鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、第二十條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十一條 鑛業權者ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條 鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキハ様式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十四條 鑛夫就業中又ハ事業場内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第三十四條ノ二 探掘權者ハ様式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸郷旅費支給ノ狀況ヲ、様式第三號ニ依リ同條同項

第七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十五條 鑛業權者ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

(本條ハ昭和五年九月一日ヨリ次ノ如ク改ム)

第三十五條 (昭和五年九月一日ヨリ施行) 鑛業權者ハ坑外ニ於テ就業スル鑛夫ニ付始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

鑛業權者ハ坑内ニ於テ就業スル鑛夫ニ付テハ入坑ノ時刻及出坑ノ時刻並休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ入坑時刻ハ入坑ノ開始及終了ノ時刻、出坑時刻ハ出坑ノ開始及終了ノ時刻トス

鑛業權者ハ所定ノ入坑時刻又ハ入坑開始時刻前ニ入坑シタル者及所定ノ出坑時刻又ハ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付様式第五號ニ依リ記録スヘシ

前項ノ記録ハ事由ノ發生シタル日ヨリ三年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ雇傭勞役規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムヘシ

第三十七條 鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭、勞役又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十七條ノ二 鑛山監督局長ハ鑛業權者ニ對シ本則施行上必要ナル報告ヲ命スルコトヲ得

第三十八條 雇傭勞役規則ニ違背シタル探掘權者、第十四條、第十五條、第十六條第一項、第三十一條第一項第二項若ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者、正當ノ事由ナクシテ第二十四條ノ診斷若ハ檢案ヲ爲サシメサリシ者又ハ第三十一條第三

項ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサリシ者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

(本條ハ昭和五年九月一日ヨリ次ノ如ク改ム)

第三十八條 (昭和五年九月一日ヨリ施行)

雇傭勞役規則ニ違背シタル採掘權者第十一條第二項、第十四條、第十五條、第十六條第一項、第三十一條第一項第二項若ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者、正當ノ理由ナクシテ第三十四條ノ診斷若ハ檢案ヲ爲サシメサリシ者又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサリシ者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條 鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免レシメ又ハ免レシメムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條 第二條第二項、第二十三條、第三十四條ノ二乃至第三十七條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條 鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本則ハ第十七條乃至第三十一條、第二十八條乃至第四十一條及第四十七條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

國ノ鑛業ニ於ケル鑛夫及其ノ遺族ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

附則

第四十三條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 第五條ノ規定ハ本則施行前ヨリ十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ本則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ其ノ鑛夫ノ氏名及生年月日ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第四十五條 第八條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年六箇月間、第十四條、第十五條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ本則

施行ノ日ヨリ四箇月間之ヲ適用セス(大正五年十二月二十六日農商務省令第二十九號ニテ改正)

第四十六條 鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則竝扶助規則ニシテ本則施行前ニ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得但シ本則ノ規定ニ違背スルモノハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 第四十四條第二項又ハ前條但書ノ規定ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則 (大正十五年內務省令第十七號)

本令ハ大正十三年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ許可ヲ受ケタル雇傭勞役規則ニシテ本令ニ依リ變更ヲ要スルモノハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行ノ後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治愈シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

本令(第三條ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

附則 (昭和三年內務省令第三十號)

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ第七條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス
第十一條ノ二ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス

附則 (昭和四年內務省令第二十五號)

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(樣式省略)

△工業労働者最低年齢法

大正十二年三月二十九日
法律第三十四號

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲クル事業ヲ謂フ

- 一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業
- 二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム）
- 三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事
- 四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク
- 五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備付クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備付アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條 使用者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工場主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年六月五日勅令第五百五十二號）

本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

△工業労働者最低年齢法施行規則

大正十五年六月七日
内務省令第十四號

第一條 工業労働者最低年齢法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）、鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第二條 工業労働者最低年齢法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歴ニ付テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條 工業労働者最低年齢法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

附則

本令ハ工業労働者最低年齢法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年七月一日ヨリ施行)
工業労働者最低年齢法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歳以上十四歳未満ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ
前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(様式省略)

△職業紹介法

大正十年四月九日
法律第五十五號

- 第一條 市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 市町村ハ職業紹介所ヲ設置スルコトヲ得
- 第三條 内務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市町村ヲ指定シ職業紹介所ノ設置ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 市町村職業紹介所ヲ設置スルトキハ市町村長之ヲ管理ス
- 第五條 市町村ニ非サル者職業紹介所ヲ設置セムトスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 本法ニ依ル職業紹介所ノ職業紹介ハ之ヲ無料トシ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス報償トシテ手数料其ノ他ノ財物ヲ受クルコトヲ得ス
- 第七條 職業紹介所ノ事業ノ聯絡統一ヲ圖ル爲中央及地方ニ職業紹介事務局ヲ設ク内務大臣之ヲ監督ス
職業紹介事務局ノ管轄區域、組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八條 職業紹介所ノ事業ノ經營ニ關シ職業紹介委員會ヲ置ク内務大臣之ヲ監督ス
職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 市町村ノ設置スル職業紹介所ニ關スル經費ハ市町村ノ負擔トス

第十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介所ニ關スル經費ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ支出額ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

第十一條 職業紹介所ノ設備及管理並職業紹介所ノ事業ノ聯絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 職業紹介事業ハ内務大臣及職業紹介事務局ノ長之ヲ監督ス

第十三條 監督官廳ハ職業紹介事業ノ監督上必要ナル場合ニ於テハ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ業務又ハ會計ヲ檢閲スルコトヲ得

第十四條 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第七條及第十二條ノ規定ハ勅令ヲ以テ他ノ規定ヨリ後ニ之ヲ施行スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ第七條及第十二條ノ規定ヲ他ノ規定ヨリ後ニ施行スル場合ニ於テハ其ノ施行ニ至ル迄ノ間職業紹介事業ノ監督ハ内務大臣、地方長官及郡長之ヲ行フ

本法施行ノ際現ニ存スル職業紹介所ニシテ市町村ノ經營ニ係ルモノハ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス其ノ市町村ニ非サル者ノ經營ニ係ル無料ノ職業紹介所ニ付テハ勅令ニ定ムル期間内ニ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

職業紹介法施行期日ノ件

(大正十年勅令第
二百九十一號)

職業紹介法ハ第七條及第十二條ノ規定ヲ除クノ外大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

職業紹介法ノ一部施行期日ノ件

(大正十二年
勅令第六號)

職業紹介法第七條及第十二條ノ規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

△職業紹介法施行令

大正十年六月二十九日
勅令第二百九十二號

改正 大正十二年第一〇八號
一四年第二四〇號

第一條 職業紹介法第三條ノ規定ニ依リ内務大臣ニ於テ職業紹介所ノ設置ヲ命スルコトヲ得ヘキ市町村左ノ如シ

一 市

二 人口三萬以上ノ町村又ハ人口三萬ニ滿タスト雖内務大臣ニ於テ特ニ職業紹介所ノ設置ヲ必要ト認ムル町村

第二條 職業紹介法第十條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區別ニ依リ支出精算額ニ對シ之ヲ爲ス但シ寄附金其ノ他ノ收入アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

一 職業紹介所建築費及之ニ伴フ初度調辨費、二分ノ一
二 其ノ他ノ諸費、六分ノ一

第三條 市町村ハ其ノ經營ニ係ル職業紹介所カ職業ヲ紹介スル者ニ對シ其ノ者ノ現在地ヨリ就職地ニ到ル旅費ノ全部又ハ一部ヲ貸付スルコトヲ得

市町村ハ其ノ經營ニ係ル職業紹介所ノ紹介ニ依リテ官公署ニ雇傭セラレタル日傭労働者ニ對シ豫メ當該官公署ノ委託ヲ受ケ市町村費ヲ以テ賃銀ノ一時繰替ヲ爲スコトヲ得

市町村ハ其ノ經營ニ係ル職業紹介所ノ紹介ニ依リテ官公署ニ非サル使用者ニ雇傭セラレタル日傭労働者ニ對シ豫メ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ニ準シ賃銀ノ一時繰替ヲ爲スコトヲ得

第四條 職業紹介法ニ規定シタル行政官廳ノ職權ハ地方職業紹介事務局長之ヲ行フ

第五條 本令中市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スハキモノトス

附則 (大正十年勅令第二百九十二號)

本令ハ大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

職業紹介法附則第三項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ六月トス

△職業紹介法施行規則

大正十三年十一月二十七日
内務省令第二十九號

改正 昭和八年
第二〇號

第一條 市町村長ハ必要ニ應シ勞務需要供給ノ狀況ヲ調査シ地方職業紹介事務局長ニ之ヲ報告スヘシ

第二條 市町村職業紹介所ヲ設置セントスルトキハ豫メ其ノ位置、設備、職員定數及事業經營ニ關スル諸規程ニ付地方職業紹介事務局長ノ認可ヲ受クヘシ新ニ事業經營ニ關スル諸規程ヲ設ケントスルトキ又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

毎年一定ノ季節ニ限り又ハ臨時ニ開所スル職業紹介所ニ在リテハ前項ノ外其ノ設置ヲ必要トスル事由ヲ具シ開所期間ニ付地方職業紹介事務局長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第三條 職業紹介法第五條ノ規定ニ依リ職業紹介所設置ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ申請スヘシ

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 設備

四 職員定數

五 事業經營ニ關スル諸規程

六 開所豫定年月日

法人又ハ團體ニ在リテハ別ニ定款又ハ之ニ準スヘキ約款、事業成績、資産狀況並理事其ノ他代表者ノ氏名、本籍、住所及履歷ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項第一號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ地方職業紹介事務局長ノ認可ヲ受クヘシ

第一項又ハ第四項ノ規定ニ依リ提出スル書類ハ職業紹介所所在地ノ市町村長ヲ經由スヘシ

第四條 市町村職業紹介所ヲ設置シタルトキハ直ニ適當ノ方法ニ依リ其ノ名稱、位置及開所年月日、第二條第二項ノ規定ニ依リ設置スル職業紹介所ニ在リテハ其ノ名稱、位置及開所期間ヲ公示スヘシ職業紹介所ヲ廢止又ハ公示シタル事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

市町村長前項ノ規定ニ依リ公示ヲ爲シタルトキハ地方職業紹介事務局長ニ之ヲ報告スヘシ

職業紹介法第五條ノ規定ニ依リ設置シタル職業紹介所ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第五條 職業紹介所ニハ所長ヲ置キ所務ヲ整理セシムヘシ

前項ノ外事務ノ職員ヲ置キ事務ヲ分掌セシムヘシ但シ毎年一定ノ季節ニ限り又ハ臨時ニ開所スル職業紹介所ニ在リテハ地方職業紹介事務局長ノ認可ヲ受ケ兼務ノ職員ヲ以テ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第六條 市町村ハ職業紹介所ノ事業ノ經營ニ關シ職業紹介委員ヲ置クコトヲ得

職業紹介委員中ニハ使用者ノ利益ヲ代表シ得ル者及勞働者ノ利益ヲ代表シ得ル者ヲ各同數加フルコトヲ要ス
職業紹介委員ハ市町村長之ヲ任免ス

第七條 職業紹介委員ハ職業紹介所ノ事業ノ經營ニ關シ市町村長ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ開申ス

第八條 職業紹介委員ノ定數、組織及事務執行ニ關スル規程ハ市町村長之ヲ定ム

第九條 市町村長ハ左ノ事項ヲ地方職業紹介事務局長ニ報告スヘシ

- 一 職業紹介委員ノ定數組織及事務執行ニ關スル規程
- 二 職業紹介委員ノ資格及氏名
- 三 職業紹介委員ニ諮問シタル事項並其ノ開申事項

第十條 求人又ハ求職ノ申込ヲ受ケタルトキハ住所、氏名、其ノ他必要ナル事項ヲ求人票又ハ求職票ニ登録スヘシ

第十一條 地方職業紹介事務局長ハ區域ヲ定メ其ノ區域内ノ職業紹介所ノ一ヲ指定シ相互ノ聯絡ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

地方職業紹介事務局長必要アリト認ムルトキハ前項ノ指定ニ代ヘ又ハ前項ノ指定ノ外特殊ノ紹介部門ニ付聯絡ニ關スル事務ヲ掌ルヘキ職業紹介所ヲ指定シ之ヲ聯絡スヘキ職業紹介所ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ地方職業紹介事務局長ハ直ニ之ヲ中央職業紹介事務局長ニ報告シ且關係職業紹介所ニ通報スヘシ

第十二條 職業紹介所ハ求人ノ申込ニシテ速ニ紹介スルコト能ハサルモノアルトキハ前條ノ規定ニ依ル指定職業紹介所ニ、其ノ職業紹介所ナキトキハ地方職業紹介事務局ニ其ノ求人ノ條件ヲ通報スヘシ

職業紹介所求人ノ採用地其ノ他求人ノ條件等ニ徴シ指定職業紹介所以外ノ職業紹介所又ハ地方職業紹介事務局ニ通報スルヲ適當ト認ムルモノニ付テハ前項ノ規定ニ依ラス即時其ノ求人ノ條件ヲ通報スルコトヲ得

第十三條 前條ノ規定ニ依リ通報ヲ爲シタル求人申込ノ内既ニ紹介シタルモノアリテ之カ頭末調査ヲ了シタルトキハ其ノ頭末ヲ即時通報ヲ爲シタル職業紹介所又ハ地方職業紹介事務局ニ通報スヘシ
前條ノ規定ニ依リ通報シタル後紹介シタルトキハ其ノ事實、其ノ頭末調査ヲ了シタルトキハ其ノ頭末ヲ即時前項ノ例ニ

依り通報スヘシ

人員條件等ニ變更アリタルトキ又ハ取消其ノ他ノ事由ニ依り紹介ヲ要セサルニ至リタルトキハ即時第一項ノ例ニ依り通報スヘシ

第十四條 第十一條ノ規定ニ依ル指定職業紹介所第十二條第一項ノ規定ニ依ル通報ヲ受ケタルトキハ直ニ聯絡日報ヲ作成シ聯絡スヘキ職業紹介所ニ之ヲ送付スヘシ

第十一條ノ規定ニ依ル指定職業紹介所前項ノ聯絡手續ヲ了シタル場合ニ於テ尙紹介スルコト能ハサルモノアルトキハ其ノ求人ノ條件ヲ地方職業紹介事務局ニ通報スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依り通報ヲ受ケタル事項ハ即時地方職業紹介事務局ニ之ヲ通報スヘシ

第十五條 第十二條及前條第二項ノ規定ニ依り通報ヲ受ケタル地方職業紹介事務局ハ直ニ聯絡日報ヲ作成シ其ノ管轄區域内ノ適當ト認ムル職業紹介所ニ之ヲ送付スヘシ

地方職業紹介事務局求人ノ採用地其ノ他求人ノ條件等ニ徴シ中央職業紹介事務局又ハ他ノ地方職業紹介事務局ニ通報スルヲ適當ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス即時其ノ求人ノ條件ヲ之ニ通報スルコトヲ得

地方職業紹介事務局第一項ノ聯絡手續ヲ了シタル場合ニ於テ尙紹介スルコト能ハサルモノアルトキハ其ノ求人ノ條件ヲ中央職業紹介事務局ニ通報スヘシ

地方職業紹介事務局ハ前二項ノ通報ヲ爲シタル求人ニ關シ第十三條及前條第二項後段ノ規定ニ依り通報ヲ受ケタルトキハ其ノ事項ヲ即時中央職業紹介事務局又ハ通報シタル地方職業紹介事務局ニ通報スヘシ

第十六條 前條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル通報ヲ受ケタル中央職業紹介事務局ハ直ニ聯絡日報ヲ作成シ適當ト認ムル地方職業紹介事務局ニ之ヲ送付スヘシ

第十七條 地方職業紹介事務局ニ於テ第十五條第二項又ハ前條ノ規定ニ依り通報ヲ受ケタル求人ニ付テハ第十五條第一項

ノ規定ヲ準用ス

第十八條 求人ノ通報ヲ受ケタル職業紹介所ニ於テ適當ナル求職者アルトキハ其ノ求職票ノ副本ヲ求人ノ受付ヲ爲シタル職業紹介所ニ送付スヘシ此ノ場合ニ於テ求人ノ受付ヲ爲シタル職業紹介所其ノ求職者ヲ紹介セントスルトキハ其ノ求職票ノ副本ヲ送付シタル職業紹介所ニ此ノ旨通報スヘシ

第十九條 第十一條ノ規定ニ依ル指定職業紹介所、地方職業紹介事務局又ハ中央職業紹介事務局第十三條、第十四條第二項後段又ハ第十五條第四項ノ規程ニ依ル通報ヲ受ケタルトキハ即時聯絡整理日報ヲ作成シ聯絡日報ヲ送付シタル職業紹介所又ハ地方職業紹介事務局ニ之ヲ送付スヘシ

第二十條 職業紹介所求職ノ申込ニシテ聯絡ノ必要アリト認ムルモノニ對シテハ第十二條乃至第十七條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

求職ノ通報ヲ受ケタル職業紹介所ニ於テ適當ナル求人者アリテ之ニ紹介セントスルトキハ求職ノ受付ヲ爲シタル職業紹介所ニ此ノ旨通報スヘシ

第二十一條 地方職業紹介事務局長ハ第十一條ノ規定ニ依ル指定職業紹介所ノ聯絡方法ニ關シ必要アリト認ムルトキハ第十四條第一項ノ規定ニ依ラサル聯絡方法ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ中央職業紹介事務局長ニ報告シ且關係職業紹介所ニ通報スヘシ

第二十二條 多數ノ求職者ヲ紹介スル場合ニ於テ勞働移動ヲ伴フ等ノ事情ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ中央職業紹介事務局長又ハ地方職業紹介事務局長ハ第十二條乃至第十九條ノ規定ニ依ラサル聯絡方法ヲ定ムルコトヲ得地方職業紹介事務局長前項ノ規定ニ依り聯絡方法ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ中央職業紹介事務局長ニ報告スヘシ

第二十三條 職業紹介所ハ左ノ票簿ヲ備フヘシ
一 求人票

二 求職票

三 紹介日計簿

第二十三條 職業紹介所長ハ事業狀況ヲ左ノ區別ニ依リ地方職業紹介事務局長ニ報告スヘシ

一 旬報 翌旬五日迄

二 月報 翌月八日迄

前項各號ノ報告様式ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

地方職業紹介事務局長第一項ニ規定シタル報告ヲ受理シタルトキハ之ヲ取纏メ速ニ中央職業紹介事務局長及地方長官ニ報告シ中央職業紹介事務局長ハ各地方職業紹介事務局長ノ報告ヲ取纏メ速ニ之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第二十四條 職業紹介所ヲ設置スル者職業紹介所ヲ廢止セムトスルトキハ地方職業紹介事務局長ノ認可ヲ受クヘシ

職業紹介法第五條ノ規定ニ依リ設置シタル職業紹介所ニ付前項ノ規定ニ依リ提出スル書類ハ職業紹介所所在地ノ市町村長ヲ經由スヘシ

第二十五條 本令中町村又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村又ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ昭和八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル臨時ニ開所スル職業紹介所ニ在リテハ開所期間ヲ定メ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ地方職業紹介事務局長ノ認可ヲ受クヘシ

本令施行ノ際現ニ聯絡手續中ノ求人求職ノ取扱ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

(別表省略)

△健康保險法

大正十一年四月二十二日
法律第七十號

改正 大正一五年第三四號、昭和四年第二〇號、九年第一三號

第一章 總 則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出産手當金ノ支給ヲ爲スモノトス

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス
標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス
命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動、報酬等ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシメ其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料及延滞金ヲ徵收ス

第十二條 前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得但シ保險者ガ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得ルハ政府ガ保險者ナル場合ニ限ル

第十三條 保險者ガ前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第十四條 前二項ノ規定ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第十五條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十六條 四 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十七條 政府ノ事業ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラズ

一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場

二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ工場

三 左ニ掲グル事業ニシテ常時五人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

(イ) 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業

(ロ) 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

(ハ) 電氣ノ傳導又ハ動力ノ發生若ハ傳導ノ事業

(ニ) 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

(ホ) (ニ)ニ掲グルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第十九條 前條ノ工場、事業場又ハ事業ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業ニ付亦同ジ

一 前條第三號ノ事業ニシテ常時五人未滿ノ勞働者ヲ使用スルモノ

二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

三 貨物積卸ノ事業

四 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
一事業ニ於テ作業ノ場所ニ以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於
ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス
第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 第十三條ノ工場又ハ事業ガ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ其ノ工場又ハ事業ニ付第十四條ノ認可
リタルモノト看做ス

第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十
五條第二項ノ規定ニ該當セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレサルニ至リタル日又ハ第十
三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更
ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格
ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ
勅令ノ定ムル期間内ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、保險

料ヲ納付セスシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リ
タルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第三章 保險者

第二十二條 健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス

第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合
算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作
リ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認
可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合

ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ヲ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六トニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

- 一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ
- 二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被

保險者ノ報酬日額ノ三十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ三十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ三十圓トス
被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ
金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ
付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得
産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ
減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコト
ヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セス

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ
受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ
受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後
九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ
埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ
被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シ
テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第五十九條 前條ニ掲クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ
一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部
ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス
第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ
爲サス

第六十一條 被保險者鬪争、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサル
ニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十二條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス
一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二 本法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ

爲サス

前項ニ掲クル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第六十八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定マル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

七十二條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

七十三條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セララル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ増加スルコトヲ得

七十四條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

七十五條 健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ増加スルコトヲ得

七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セス

一 傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

七十八條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

七十九條 保險料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依ル訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第三次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 第十一條ノ二ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定及民事訴訟費用法第九條及第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第七百五十八條第二項及第七百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續ヲ遅延シタル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合力第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第九十二條 事業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中事業主ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九十三條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附則 (大正十五年法律第三十四號)

附則 (昭和四年法律第二十號)

附則 (昭和四年法律第十三號)

附則 (昭和九年法律第十三號)

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法實施ノ爲ニ豫メ必要ナル事項ニ關シテハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

△健康保險法施行令

大正十五年六月三十日
勅令 第二百四十三號

改正 昭和二年第三〇號、第二二〇號、四年第一四三號、第二五〇號、九年第四〇〇號

第一章 總則

第一條 健康保險法第二條第一項ノ賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍ハ常時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ掲クルモノヲ除ク

- 一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當
- 二 通勤手當
- 三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金、給料又ハ俸給ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ
- 四 其ノ他内務大臣ノ指定スルモノ

第二條 賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ保險官署ノ定ムル標準價額ニ依リ之ヲ算定ス

前項ノ標準價額ハ其ノ地方ノ時價ニ依リ之ヲ定ム

健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條 健康保險法第三條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬日額ニ基キ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

標準報酬ノ等級	標準報酬日額	報酬日額
第一級	三十五錢未滿	

第 二 級	第 三 級	第 四 級	第 五 級	第 六 級	第 七 級	第 八 級	第 九 級	第 十 級	第 一 級	第 二 級	第 三 級	第 四 級	第 五 級	第 六 級	第 七 級	第 八 級	第 九 級	第 十 級	
四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	
三十五錢以上四十五錢未滿	四十五錢以上五十五錢未滿	五十五錢以上六十五錢未滿	六十五錢以上七十五錢未滿	七十五錢以上八十五錢未滿	八十五錢以上一圓十五錢未滿	一圓十五錢以上一圓四十五錢未滿	一圓四十五錢以上一圓七十五錢未滿	一圓七十五錢以上二圓五錢未滿	二圓五錢以上二圓三十五錢未滿	二圓三十五錢以上二圓六十五錢未滿	二圓六十五錢以上二圓九十五錢未滿	二圓九十五錢以上三圓二十五錢未滿	三圓二十五錢以上三圓七十五錢未滿	三圓七十五錢以上					

第四條

標準報酬ハ毎年六月一日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ七月一日ヨリ翌年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ於ケル標準報酬ハ其ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ其ノ日ヨリ六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス

被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ被保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ變更ヲ爲スヘシ

健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス引續キ従前ノ標準報酬ニ依ル健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ決定ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五條 第三條ニ規定スル被保險者ノ報酬日額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

- 一 年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一
- 二 月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一
- 三 前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

四 日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿チサルトキハ其ノ地方ニ於テ同様ノ作業ニ従事シ同様ノ報酬ヲ受クル被保險者ノ報酬ニ付本號ノ規定ニ依リテ算定シタル額

五 前四號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ標準報酬決定ノ日前一年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿チサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

六 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

七 同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受ケタル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

被保險者ノ報酬日額カ前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル額カ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス保險者ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定スヘシ

保險者カ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ算定方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五條ノ二 健康保險法第十一條第一項ノ規定ニ依リ保險料其ノ他同法ノ規定ニ依ル徵收金納付ノ督促ヲ爲サントスルト

キハ保險者ハ納付義務者ニ對シ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ヲ發シタルトキハ督促手数料トシテ十錢ヲ徵收ス

第五條ノ三 前條ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ徵收金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ徵收金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スベキ情狀アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 納入ノ告知書一通ノ徵收金額五圓未滿ナルトキ
- 二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ
- 三 納付義務者ノ住所及居所カ帝國内ニ在ラザル爲又ハ其ノ住所及居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納入ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ徵收金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徵收セズ

第六條 健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ事業主カ内務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ政府カ事業主ナルトキハ内務大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 政府ノ事業ニ使用セラルル被保險者ガ共濟組合ノ組合員ナル場合ニ於テ其ノ組合ノ給付ノ種類及程度ヲ内務大臣ニ於テ適當ナリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ其ノ被保險者ニ對シテハ健康保險法ノ規定ニ依リ保險給付ヲ爲サズ

第八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル者ニ付テハ保險料ハ之ヲ徵收セズ

第二章 被保險者

第九條 臨時ニ使用セラルル者ノ申左ニ掲クル者ハ健康保險法第十三條但書又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依リ被保險者ヲササルモノトス但シ第一號ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至ルタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 六十日以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者
- 二 使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者
- 三 日日雇入レラルル者
- 四 前各號ニ掲クルモノノ外内務大臣ノ定ムル者

第十條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日(繼續シテ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ保險者ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得

第三章 健康保險組合

第一節 組合ノ設立

第十一條 事業主健康保險組合ヲ設立スル爲健康保險法第二十九條ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ同條ノ被保險者(健康保險法第三十條ノ場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者)全部ニ送付スヘシ

- 一 組合員タルヘキ者ノ範圍
- 二 組合ノ組織ノ概要
- 三 保險料ノ概要
- 四 保險給付ノ概要
- 五 其ノ他事業計畫ノ概要

第十二條 規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 公示ノ方法

五 其ノ他組合ニ關シ重要ナル事項

第十三條 組合ハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フヘシ
健康保險組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第十四條 組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 組合設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ左ノ事項ヲ告示スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
- 四 認可ノ年月日

前項各號ノ事項ニ關スル規約ノ變更ヲ認可シタルトキハ内務大臣ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第十六條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク規約ヲ公示スヘシ規約ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十七條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク組合會ヲ招集シ組合設立ノ經過、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十八條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ事業主理事ノ職務ヲ行フ

第二節 組合ノ會議

第十九條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十條 議員ノ定數ハ十二人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ニ於テ事業主(若ハ其ノ代理人)及其ノ事業ニ使用セラルル者ノ中ニ就キ之ヲ選定シ他ノ半數ハ被保險者タル組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十一條 議員就職シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ議員退職又ハ死亡シタルトキ亦同シ

第二十二條 議員ノ選舉ハ無記名投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十三條 選舉人タル組合員議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第二十一條ノ公示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ理事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ理事ハ二十日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付シ其ノ決定アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ公示スヘシ前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定アリタル日ヨリ三十日以内ニ監督官廳ニ訴願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

議員ハ第二項ノ決定又ハ前項ノ訴願ノ裁決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十四條 本令ニ規定スルモノノ外議員ノ定數、資格、任期、選定及選舉ニ關スル事項ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 組合會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一 收入支出ノ豫算
- 二 事業報告及決算
- 三 收入支出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
- 四 準備金ノ管理方法
- 五 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分
- 六 組合債

七 規約ノ變更

八 保險料率

九 訴願訴訟ノ提起及和解

十 其ノ他重要ナル事項

第二十六條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 組合會ハ理事之ヲ招集ス
議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ期間ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

組合會開會中急施ヲ要スル事項アルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ理事之ヲ開閉ス

第二十八條 組合會ノ議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

決算ノ認定ニ關スル會議ノ議長ハ前二項ノ規定ニ拘ラス理事以外ノ出席議員中ヨリ互選セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十二條ノ除斥ノ爲半數ニ滿

ヲサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條 議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルト

キハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十三條 議員ハ自ラ會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ病氣其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ會議ニ出席スルコト能ハサ

ル議員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議

ニ出席シタルモノト看做ス

第三十四條 組合員ハ規約ニ定ムル特別ノ場合ヲ除ク外組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得

第三十五條 議員ハ其ノ職務ノ爲要スル旅費ノ支給ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ補償ヲ組合ヨ

リ受クルコトヲ得

第一項ノ旅費及前項ノ補償ノ額及支給方法ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三節 組合ノ役員

第三十六條 組合ニ理事ヲ置ク

理事ノ定數ハ四人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ノ選定シタル議員ニ於テ、他ノ半數ハ被保險者タル組合員ノ互選シ

タル議員ニ於テ之ヲ互選ス

理事ノ中一人ヲ理事長トシ事業主ノ選定シタル議員タル理事中ニ就キ理事之ヲ選舉ス

第三十七條 理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條 組合ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

第三十九條 組合會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ監督官廳ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事

項ヲ處置スルコトヲ得

第四十條 組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇

ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第四十一條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スベシ

第四十二條 理事ハ規約、財産目録、事業報告書、組合原簿及組合會ノ會議録ヲ事務所ニ備フヘシ

組合員前項ノ書類ノ閲覧ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 第二十一條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ準用ス

第四節 組合ノ財務

第四十四條 組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十五條 組合ハ毎會年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ

豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

第四十七條 組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

第四十八條 組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其ノ支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限リトシ

其ノ出納ヲ閉鎖ス

第四十九條 組合ハ保險料率ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ハ少クトモ保險給付ニ要シタル費用ノ前二年度ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額(剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ全額)ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ限度内ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 組合ハ準備金ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 準備金以外ノ財産ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條 組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍現金ニ不足アルトキハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及一時借入金ハ當該會計年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第二項ノ一時借入金ヲ爲シ得ヘキ限度ハ毎年度監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 組合ハ重要ナル財産ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 組合ノ分合解散

第五十六條 組合合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ

第五十七條 組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

一事業ニ於テ作業ノ場所ニ以上アル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ内務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第五十八條 分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存続スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第五十九條 合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 分割ニ依リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存続スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

第六十二條 組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合及合併又ハ分割後存続スル組合ニ付左ノ事項ヲ告示スヘシ

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 認可ノ年月日

第六十三條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ニ付之ヲ準用ス

合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タリシ者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ノ組合員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事タリシ者之ヲ行フ

第六十四條 組合解散ヲ爲サムトスルトキハ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺カ一時的ナル場合ニ於テハ解散スルコトナシ

第六十六條 組合解散シタルトキハ内務大臣ハ第六十二條ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條 組合ノ設立アル事業ヲ増減セムトスルトキハ編入又ハ削除セラルヘキ事業ノ事業主ノ全部及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

編入又ハ削除セラルヘキ事業ニ以上アル場合ニ於テハ前項ノ被保險者ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依リ認可ノ申請ト同時ニ事業編入ニ關スル規約變更ノ認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第六十八條 第五十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 事業ノ削除ヲ爲ス場合ニ於テハ削除後ニ於テモ組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第七十條 組合カ第六十七條ノ同意ヲ求メムトスルトキハ事業ノ編入ノ場合ニ在リテハ第十一條各號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ、事業ノ削除ノ場合ニ在リテハ削除ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ編入又ハ削除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ喪失スヘキ者ノ全部ニ送付スヘシ

第六節 組合ノ監督

第七十一條 内務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ一月以内ニ議員ノ選定及選舉ヲ爲スヘシ

第七十二條 健康保險法第三十九條ノ規定ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ得ス

第七十三條 第二十三條第三項、第二十九條、第四十五條第一項、第四十九條、第五十一條、第五十三條第四項、第五十四條及第五十五條ニ於テ監督官廳トアルハ社會局長官トス

第四章 保險給付

第七十四條 健康保險法第四十三條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

- 一 診察
 - 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
 - 三 處置、手術其ノ他ノ治療
 - 四 看護
 - 五 被保險者ノ移送
- 前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他被保險者必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ被保險者必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第七十五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ被保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタルモノニ就キ之ヲ受クルコトヲ得但シ健康保險法第四十三條第三項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

被保險者前項ノ規定ニ依リ醫師又ハ齒科醫師ヲ選定シタルトキハ被保險者ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

保險者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ前項ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十六條 前條ニ規定スル醫師又ハ齒科醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受クルコトヲ得

第七十七條 左ノ場合ニ於テハ健康保險法第四十四條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

一 保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二 被保險者カ保險者ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ

三 被保險者カ緊急ノ場合ニ於テ保險者ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ

健康保險組合ハ前項各號ノ外規約ヲ以テ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得ル場合ヲ定ムルコトヲ得

第七十八條 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ保險者之ヲ定ム

第七十九條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ傷病手當金ハ左ノ額トス

一 主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合 標準報酬日額ノ百分ノ二十

二 前號ニ掲クル者二人以内ナル場合 標準報酬日額ノ百分ノ四十

三 第一號ニ掲クル者三人以上ナル場合 標準報酬日額ノ百分ノ六十

第八十條 出産手當金ハ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間之ヲ支給ス

分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ保險者ハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

第八十一條 産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ分娩費ノ額ハ十圓トス

産院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スル出産手當金ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ準用ス

第八十二條 分娩ニ關スル保險給付ハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス但シ九十

日以上被保險者タリシ者ニ對シテハ分娩費ヲ支給シ又ハ助産ノ手當ヲ爲ス

第八十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テ各保險者ノ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ノ分擔額ハ其ノ給付ヲ受クル者カ分娩ノ豫定日前二百八十日目ヨリ分娩ノ日以後四十二日迄ノ期間ニ於テ被保險者タリシ期間ノ割合ニ應シテ之ヲ算定ス

第八十四條 被保險者タリシ者分娩ニ關スル保險給付ヲ受クルニハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後百八十日以内ニ分娩シタルコトヲ要ス

第八十五條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ヲ支給セス但シ其ノ受クルコトヲ得ヘキ報酬ノ額カ傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第八十六條 前條ニ掲クル者其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ニ付其ノ全額ヲ受クルコト能ハサリシトキハ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全額、其ノ一部ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ於テ受ケタル額カ傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ額ト傷病手當金又ハ出産手當金トノ差額ヲ支給ス但シ前條但書ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ一部ヲ受ケタルトキハ其ノ額ヲ支給額ヨリ控除ス

第八十七條 健康保險法第六十二條第二項ニ掲クル者ニ對シ支給スヘキ傷病手當金ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ準用ス

第八十八條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シテハ保險者ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メ其ノ者ニ支給スヘキ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ決定ハ保險者ニ於テ其ノ事實ヲ知リタルトキ遲滞ナク之ヲ爲シ本人ニ通知スヘシ
被保險者業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ヲ支給ス
前項ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セス

第八十九條 傷病手當金及出産手當金ハ少クトモ毎月二回一定ノ期日ニ之ヲ支給スヘシ但シ毎月一回報酬ノ支拂ヲ受タル
被保險者ニ付テハ毎月一回其ノ報酬支拂ノ日ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

療養費、埋葬料及分娩費ハ其ノ都度之ヲ支給スヘシ健康保險法第四十九條第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ニ付亦
同シ

第五章 費用ノ負擔

第九十條 健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

前項ノ概算拂ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第九十一條 健康保險法第七十條第一項ノ規定ニ依ル國庫負擔金算定ノ基礎タル保險給付ニ要スル費用ノ額ハ療養ノ給
付、産院收容及助産ノ手當ニ直接要シタル金額並傷病手當金、出産手當金、分娩費、埋葬料、療養費及健康保險法第四十九條
第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給額ノ合算額トシ毎年度之ヲ計算ス但シ同法第四十八條ノ規定ニ依ル療養ノ
給付ニ直接要シタル金額及同法第五十九條第一項ノ規定ニ依ル傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給額ハ之ヲ算入セス

前項ノ療養ノ給付、産院收容又ハ助産ノ手當ニ要シタル器具、機械、建築物其ノ他ノ施設ニシテ其ノ效用二年以上ニ亙ル
モノニ付テハ之ニ要シタル費用ヲ其ノ施設ノ豫定使用年數ニ應シ各年均等ニ分割シテ之ヲ計算ス

第九十二條 健康保險法第七十條第二項ニ規定スル被保險者ノ員數ハ其ノ年度内ノ各月末ニ於ケル被保險者ノ總數ノ平均
數トス

第九十三條 健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付二年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ各健康

保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ額ハ健康保險法第七十條第二項ノ國庫負擔金ヲ總額ノ限度ニ於テ各健康保險組合ノ保險

給付ニ要スル費用ノ額ニ應シ内務大臣之ヲ定ム

第九十四條 保險料額ハ一日ニ付各被保險者ノ標準報酬日額ニ保險料率ヲ乘シテ得タル額トス

第九十五條 保險料率ハ保險者之ヲ定ム
保險料率ハ各被保險者ニ付同一ナルコトヲ要ス但シ性質上事故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ付テハ其ノ業務ノ種
類ニ從ヒ異ナル保險料率ヲ定ムルコトヲ得

第九十六條 性質上事故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ内務大臣ハ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ
保險料額ノ三分ノ二迄増加スルコトヲ得

第九十七條 第五條ノ規定ニ依リ算定シタル報酬日額五十五錢未滿ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業
主ノ負擔額ハ報酬日額五十五錢以上六十五錢未滿ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ノ負擔スヘキ額ト
同額トス但シ其ノ額カ保險料ノ全額ヲ超過スル場合ニ於テハ事業主ノ負擔額ハ保險料ノ全額トス

第九十八條 事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂フ場合ニ於テハ被保險者ノ負擔スヘキ前月分ノ保險料ヲ報酬
ヨリ控除スルコトヲ得

事業主ハ被保險者カ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキニ限り前項ノ規定ニ拘ラス報酬支拂ノ際ニ於テ被保險者
ノ負擔スヘキ前月分及其ノ月分ノ保險料ヲ控除スルコトヲ得

第九十九條 事業主ハ保險料ノ控除ニ關スル計算書ヲ作製シ被保險者ノ請求ニ應シテ閱覽セシムヘシ

第一百條 毎月ノ保險料ハ翌月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

保險者保險料納入ノ告知ヲ爲シタル後ニ於テ告知シタル保險料額ガ當該納付義務者ノ納付スベキ保險料額ヲ超過スルコ
トヲ知リタルトキハ其ノ超過部分ニ對スル納入ノ告知ハ其ノ告知ヲ爲シタル後六月以内ノ期日ニ於テ納付セラレベキ保

險料ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納入ノ告知ヲ爲シタルモノト看做シタルトキハ保險者ハ其ノ旨ヲ當該納付義務者ニ通知スベシ

第一百一條 健康保險組合ハ第九十八條又ハ前條ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第一百一條ノ二 保險料納付義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ納期前ト雖モ保險料ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

一 國稅、府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ

二 被保險者ノ使用セラルル工場又ハ事業場ヲ廢止シタルトキ

三 強制執行ヲ受クルトキ

四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五 競賣ノ開始アリタルトキ

六 法人ガ解散ヲ爲シタルトキ

第六章 審査ノ請求及訴願

第一節 健康保險審査會ノ組織

第二百二條 健康保險審査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ健康保險法第八十條及第八十二條ノ審査ヲ爲ス

第二百三條 健康保險審査會ハ第一次健康保險審査會、第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會トス

健康保險審査會ノ名稱、位置及管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第二百四條 健康保險審査會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二百五條 第一次健康保險審査會ノ會長ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ第六條第一項第一號ノ委員中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命

ス

第二次健康保險審査會ノ會長ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內務部内ノ高等官中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命

第三次健康保險審査會ノ會長ハ社會局長官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 二人又ハ三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 二人又ハ三人

三 被保險者 二人又ハ三人

第二次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 三人

三 被保險者 三人

第三次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 五人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 五人

三 被保險者 五人

前三項ニ於テ被保險者ヲ使用スル事業主トアルハ事業主ガ國又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ關係官吏、又ハ公吏、其ノ他ノ法人ナル場合ニ於テハ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ支配人トス第一項ノ委員ニ付テハ同項各號ニ該當スル者各同數タルコトヲ要ス

第七條 道廳又ハ府縣(東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同ジ)ノ官吏ニシテ主トシテ健康保險ノ事務ニ従事スル者ハ健

康保險審査會ノ委員タルコトヲ得ズ

健康保險審査會ノ委員ハ他ノ健康保險審査會ノ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第百八條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣之ヲ命シ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第百九條 委員ノ任期ハ官吏又ハ公吏トシテ委員タル者ヲ除ク外三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第百十條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル
會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第百十一條 健康保險審査會ニ幹事ヲ置ク
第一次健康保險審査會ノ幹事ハ道廳又ハ府縣ノ官吏中ヨリ内務大臣之ヲ命シ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ幹事ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第百十二條 健康保險審査會ニ書記ヲ置ク
第一次健康保險審査會ノ書記ハ道廳又ハ府縣ノ判任官中ヨリ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ命ジ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ書記ハ社會局ノ判任官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二節 健康保險審査會ノ審査手續

第百十三條 審査ハ保險給付ニ關スル決定又ハ保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル健康保險審査會ニ於テ之ヲ爲ス

第百十四條 審査ハ委員定數ノ半數以上出席シ且第百六條第一項乃至第三項各號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百十五條 審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第百十六條 審査ハ文書ニ就キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出頭スルコトヲ得サルトキハ當事者ハ其ノ法定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代リテ出頭セシムルコトヲ得

口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第百十七條 審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ審査ノ請求ヲ爲スヘカラサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求カ適法ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ健康保險審査會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ之ヲ所轄健康保險審査會ニ移送スヘシ

審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ健康保險審査會之ヲ補正セシムヘシ

第百十八條 審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス

口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス傍聽ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第百十九條 保險官署ノ職員其ノ他關係官吏ハ健康保險審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述べルコトヲ得

第百二十條 事件ノ一部カ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第百二十一條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第百二十二條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第百二十三條 本節ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第三節 雜則

第百二十四條 削除

第二百二十五條 健康保險法第八十一條ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際ニ限り第四條第一項但書中資格ヲ取得シタル日ノ現在トアルハ大正十五年十一月一日ノ現在トス但シ大正十五年十一月二日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
政府ノ事業ニ使用セラルル官吏又ハ待遇官吏ニ付テハ當分ノ内内務大臣ハ之ヲ健康保險ノ被保險者ト爲ササルコトヲ得

附則 (昭和二年勅令第三十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年勅令第二百二十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和四年勅令第四百十三號)

本令ハ昭和四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和四年勅令第二百五十號)

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和九年勅令第四百號)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

△健康保險法施行規則

大正十五年七月一日
内務省令第三十六號
改正 昭和二年第四〇號、三年第一二號、四年第一八號、第二九號、九年第三九號、一〇年第二九號

第一章 總則

第一條 政府ノ管掌スル保險ハ健康保險法第十三條又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ使用セラルル工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視廳總監以下之ニ同シ)ニ於テ、同法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ニ於テ之ヲ掌ル

第二條 被保險者同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル場合ニ於テ保險者二以上アルトキ又ハ其ノ使用セラルル工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所方異リタル道府縣ニ在ルトキハ被保險者ハ其ノ保險ヲ掌ルべき地方長官又ハ健康保險組合ヲ定メ其ノ旨ヲ其ノ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

第三條 事業主ハ毎年六月一日現在ニ依リ被保險者ノ報酬日額算定ノ基礎ヲ様式第一號ニ依リ同月十日迄ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第四條 被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ事業主ハ様式第一號ニ準シ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第五條 前二條、第十條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ地方長官又ハ健康保險組合ハ被保險者ノ標準報酬ヲ決定シ遲滞ナク之ヲ事業主ニ通知スヘシ標準報酬ヲ變更シタルトキ亦同シ
事業主前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ被保險者ニ告知スヘシ

第六條 保險官署ノ官吏又ハ吏員保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢スル場合ニ於テハ様式第二號ニ依ル臨檢證ヲ携帯スヘシ

第六條ノ二 健康保險法施行令第五條ノ二ノ規定ニ依リ發スル督促狀ハ様式第二號ノ二ニ依ル